

2025年度における環境調査の結果等について
【東京都】

2026年6月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
1 概要	1-1-1
1-1 本書の概要	1-1-1
1-2 事業の実施状況	1-2-1
2 事後調査	2-1-1
2-1 植物	2-1-1
2-1-1 調査項目	2-1-1
2-1-2 調査方法	2-1-1
2-1-3 調査地点	2-1-1
2-1-4 調査期間	2-1-2
2-1-5 調査結果	2-1-3
3 モニタリング	3-1-1
3-1 水質	3-1-1
3-1-1 調査項目	3-1-1
3-1-2 調査方法	3-1-1
3-1-3 調査地点	3-1-2
3-1-4 調査期間	3-1-4
3-1-5 調査結果	3-1-5
3-2 地下水	3-2-1
3-2-1 調査項目	3-2-1
3-2-2 調査方法	3-2-1
3-2-3 調査地点	3-2-2
3-2-4 調査期間	3-2-8
3-2-5 調査結果	3-2-10
3-3 水資源（地下駅及び非常口（都市部））	3-3-1
3-3-1 調査項目	3-3-1
3-3-2 調査方法	3-3-1
3-3-3 調査地点	3-3-2
3-3-4 調査期間	3-3-6
3-3-5 調査結果	3-3-7

3-4	地盤沈下	3-4-1
3-4-1	調査項目	3-4-1
3-4-2	調査方法	3-4-1
3-4-3	調査地点	3-4-1
3-4-4	調査期間	3-4-7
3-4-5	調査結果	3-4-9
3-5	土壌汚染	3-5-1
3-5-1	調査項目	3-5-1
3-5-2	調査方法	3-5-1
3-5-3	調査地点	3-5-1
3-5-4	調査期間	3-5-4
3-5-5	調査結果	3-5-4
4	環境保全措置の実施状況	4-1-1
4-1	工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置	4-1-1
4-1-1	品川駅	4-1-1
4-1-2	第一首都圏トンネル（北品川工区）	4-1-6
4-1-3	東雪谷非常口	4-1-10
4-1-4	片平非常口	4-1-15
4-1-5	第一首都圏トンネル（小野路工区）	4-1-21
5	その他特に実施した調査	5-1-1
5-1	希少猛禽類の営巣地の状況調査	5-1-1
5-1-1	調査方法	5-1-1
5-1-2	調査地点	5-1-1
5-1-3	調査期間	5-1-1
5-1-4	調査結果	5-1-2
6	工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績	6-1-1
6-1	廃棄物等	6-1-1
6-1-1	集計項目	6-1-1
6-1-2	集計方法	6-1-1
6-1-3	集計対象箇所	6-1-1
6-1-4	集計期間	6-1-1
6-1-5	集計結果	6-1-1
6-2	温室効果ガス	6-2-1
6-2-1	集計項目	6-2-1

6-2-2	集計方法	6-2-1
6-2-3	集計対象箇所	6-2-1
6-2-4	集計期間	6-2-1
6-2-5	集計結果	6-2-1
7	業務の委託先	7-1-1
参考資料1	：事業の実施状況	参1-1
1-1	トンネルの施工状況	参1-1
1-2	建設発生土の主な搬出先と土量	参1-2
参考資料2	：騒音・振動の簡易計測	参2-1
参考資料3	：安全・安心の取組み	参3-1
3-1	調査掘進時の取組み	参3-1
3-2	掘進時の取組み	参3-1
非公開版		(別冊)

1 概要

1-1 本書の概要

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【東京都】平成26年8月」（以下、「評価書【東京都】」という。）及び「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成26年11月」に基づいて、2025年度に実施した事後調査、モニタリング及び環境保全措置の実施状況について取りまとめ、報告するものである。

1-2 事業の実施状況

2025年度における、東京都内の事業の実施状況は、以下のとおりである。

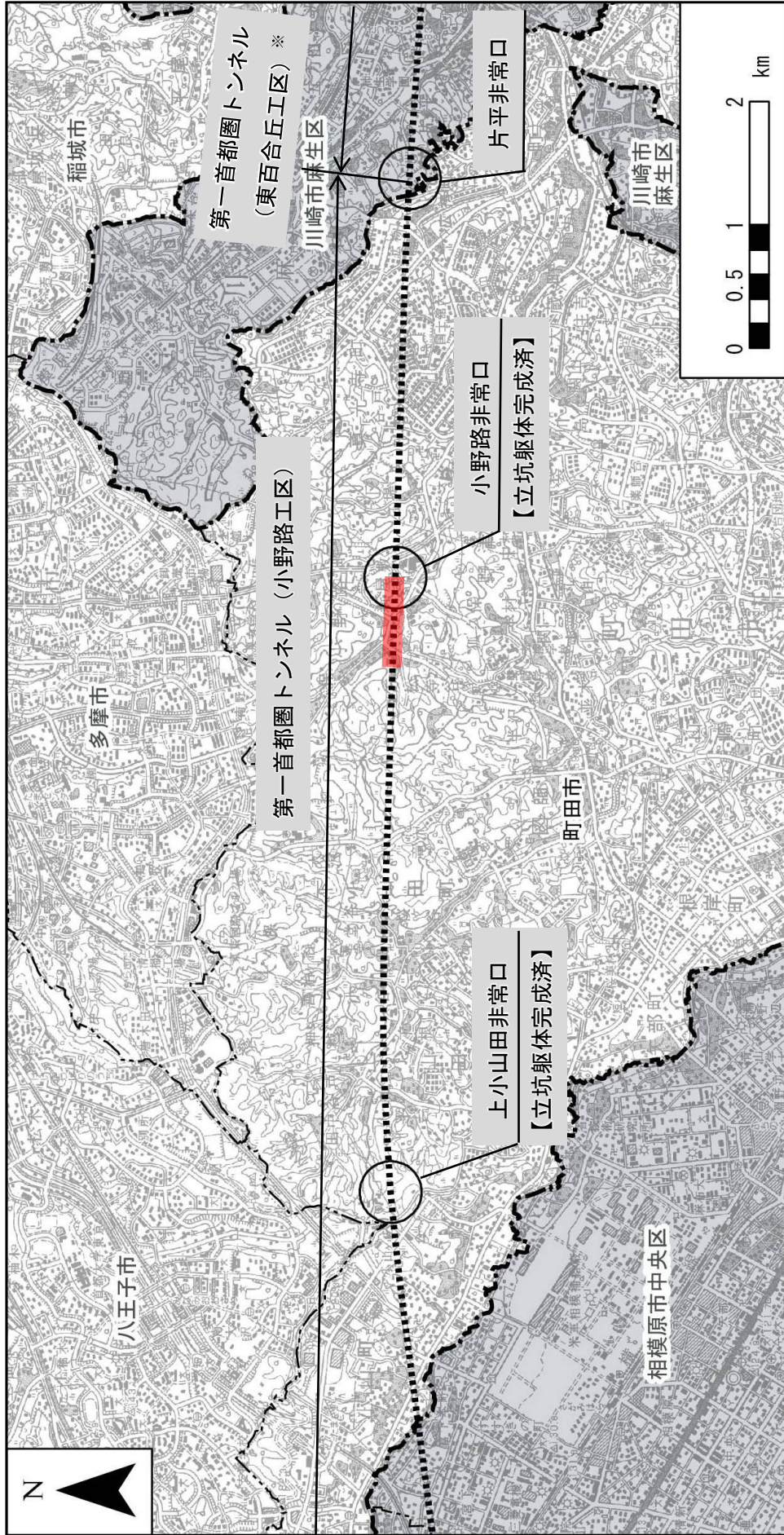
工事の実施状況は表 1-2-1、工事の実施箇所は図 1-2-1に示すとおりである。

建設発生土については、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先、公共事業等に活用した。

表 1-2-1 2025年度の工事の実施状況

実施箇所	実施状況
品川駅	・ 地中連続壁工、掘削工等を実施した。
北品川非常口	・ 立坑が完成（2019年度）。 [第一首都圏トンネル（北品川工区）発進立坑]
第一首都圏トンネル （北品川工区）	・ 北品川非常口の立坑から本格的な掘進等（名古屋方）を実施した。
目黒川変電所	・ 地下躯体が完成（2024年度）。
東雪谷非常口	・ シールド機到達準備工等を実施した。
片平非常口	・ 工事用道路が完成（2021年度）。 ・ 掘削工、非常口躯体構築工を実施した。
小野路非常口	・ 立坑が完成（2020年度）。 [第一首都圏トンネル（小野路工区）発進立坑]
第一首都圏トンネル （小野路工区）	・ 小野路非常口の立坑から本格的な掘進等（名古屋方）を実施した。
上小山田非常口	・ 北側工事用道路が完成（2022年度）。 ・ 立坑が完成（2024年度）。

・ 各トンネル等の施工状況は、参考資料1-1に記載している。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 区市境

- (トンネル部) 掘進済み範囲
- 文字 工事の実施箇所

※神奈川県内の工事の実施箇所として、「2025年度における環境調査の結果等について【神奈川県】」に実施状況を記載。

図 1-2-1(2) 工事の実施箇所

2 事後調査

2025年度は、植物について事後調査を実施した。なお、希少種の保護の観点から、生育箇所の特定に繋がるような調査結果等の一部の資料については非公開とした。

2-1 植物

重要な種の移植の効果に不確実性があることから、移植を実施した植物の生育状況の事後調査を実施した。

2-1-1 調査項目

調査項目は、移植した植物の生育状況とした。

2-1-2 調査方法

調査方法は、現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

2-1-3 調査地点

調査地点は、移植を実施した地点とし、対象は表 2-1-3-1 に示すとおりである。

表 2-1-3-1 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の生育地	移植の実施箇所	移植の実施時期		
オニカナワラビ	オンダ科	町田市 小野路町	町田市 小野路町	2015年11月25日 2015年11月26日		
タマノカンアオイ	ウマノスズクサ科			2015年11月25日 2015年11月26日		
オカタツナミソウ	シソ科			2016年7月5日 2016年7月6日		
ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ科			2015年11月25日 2015年11月26日		
キンラン	ラン科			2015年11月25日 2015年11月26日		
				2016年7月5日 2016年7月6日		
				町田市 上小山田町	町田市 上小山田町	2021年8月18日 (再移植個体を含む)
ササバギンラン	ラン科			町田市 小野路町	町田市 小野路町	2015年11月25日 2015年11月26日
ギンラン	ラン科			町田市 上小山田町	町田市 上小山田町	2021年8月18日

2-1-4 調査期間

移植後の生育状況の調査時期は、表 2-1-4-1 に示すとおりである。なお、移植後の生育状況調査の調査期間は、移植作業後 1 か月以内及び移植後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家の技術的助言等を踏まえて設定した。

表 2-1-4-1 生育状況の現地調査の時期

種名	調査箇所	調査日
オニカナワラビ	町田市 小野路町	2025 年 6 月 20 日
タマノカンアオイ		2025 年 4 月 24 日、25 日
オカタツナミソウ		2025 年 7 月 22 日
ホソバヒカゲスゲ		2025 年 4 月 24 日
キンラン		
	町田市 上小山田町	2025 年 5 月 7 日
ササバギンラン	町田市 小野路町	2025 年 4 月 24 日
ギンラン	町田市 上小山田町	2025 年 5 月 7 日

2-1-5 調査結果

(1) オニカナワラビ

小野路町における2025年度の展葉期の確認※（6月20日）においては、展葉しており、葉裏に孢子嚢も形成されていたことから良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真1に示す。

※：開花・結実する種ではないため、葉が増える展葉期に確認を実施した。



写真1 移植後の生育状況【展葉】（移植個体）
（2025年6月20日）

(2) タマノカンアオイ

小野路町における2025年度の開花期の確認（4月24日、25日）においては、移植株数よりも多い個体数が確認され、開花も見られることから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を、写真2に示す。

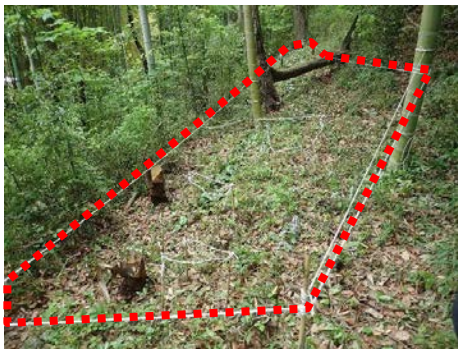


写真2 移植後の生育状況【開花】（移植個体）
（2025年4月24日、25日）

(3) オカタツナミソウ

小野路町における2025年度の結実期の確認（7月22日）においては、2024年度と比較して、株数は同程度であり、結実率は増加している。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真3に示す。



写真3 移植後の生育状況【結実】（移植個体）
（2025年7月22日）

(4) ホソバヒカゲスゲ

小野路町における2025年度の開花・結実期の確認（4月24日）において、移植株がすべて残存しており、開花・結実も見られることから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真4に示す。



写真4 移植後の生育状況【開花・結実】（移植個体）
（2025年4月24日）

(5) キンラン

小野路町における2025年度の開花期の確認（4月24日）において、2024年度と比較して、株数が減少した。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真5に示す。

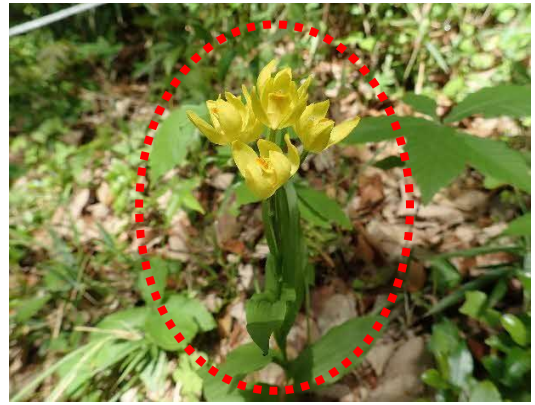


写真5 移植後の生育状況【開花】(移植個体)

(2025年4月24日)

上小山田町における2025年度の開花期の確認(5月7日)において、2024年度と比較して、同等の株数が確認されたが、生存が確認された個体の開花率は減少している。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真6に示す。



写真6 移植後の生育状況【開花】(移植個体)

(2025年5月7日)

(6) ササバギンラン

小野路町における2025年度の開花期の確認(4月24日)において、ササバギンランの株の展葉、開花は、2024年度と同様に確認されなかった。今後の調査においても、生育状況を確認する。

(7) ギンラン

上小山田町における2025年度の開花期の確認(5月7日)において、ギンランの株の展葉、開花は確認されなかった。今後の調査においても、生育状況を確認する。

3 モニタリング

2025年度は、水質、地下水、水資源（地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所）、地盤沈下及び土壌汚染について、モニタリングを実施した。

3-1 水質

公共用水域（河川）の水質について、工事中のモニタリングを実施した。

3-1-1 調査項目

調査項目は、浮遊物質（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-1-2 調査方法

調査方法は、表 3-1-2-1 に示すとおりである。

表 3-1-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
浮遊物質（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日、環境庁告示第59号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年12月28日、環境庁告示第59号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年版）」（令和5年3月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	

3-1-3 調査地点

調査地点は、表 3-1-3-1 及び図 3-1-3-1 に示すとおりである。

表 3-1-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	水系	対象河川	実施箇所	調査項目
05	町田市	鶴見川	小野路川	第一首都圏トンネル (小野路工区)	浮遊物質 (SS)、水温、 水素イオン濃度 (pH)、 自然由来の重金属等

※ 地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

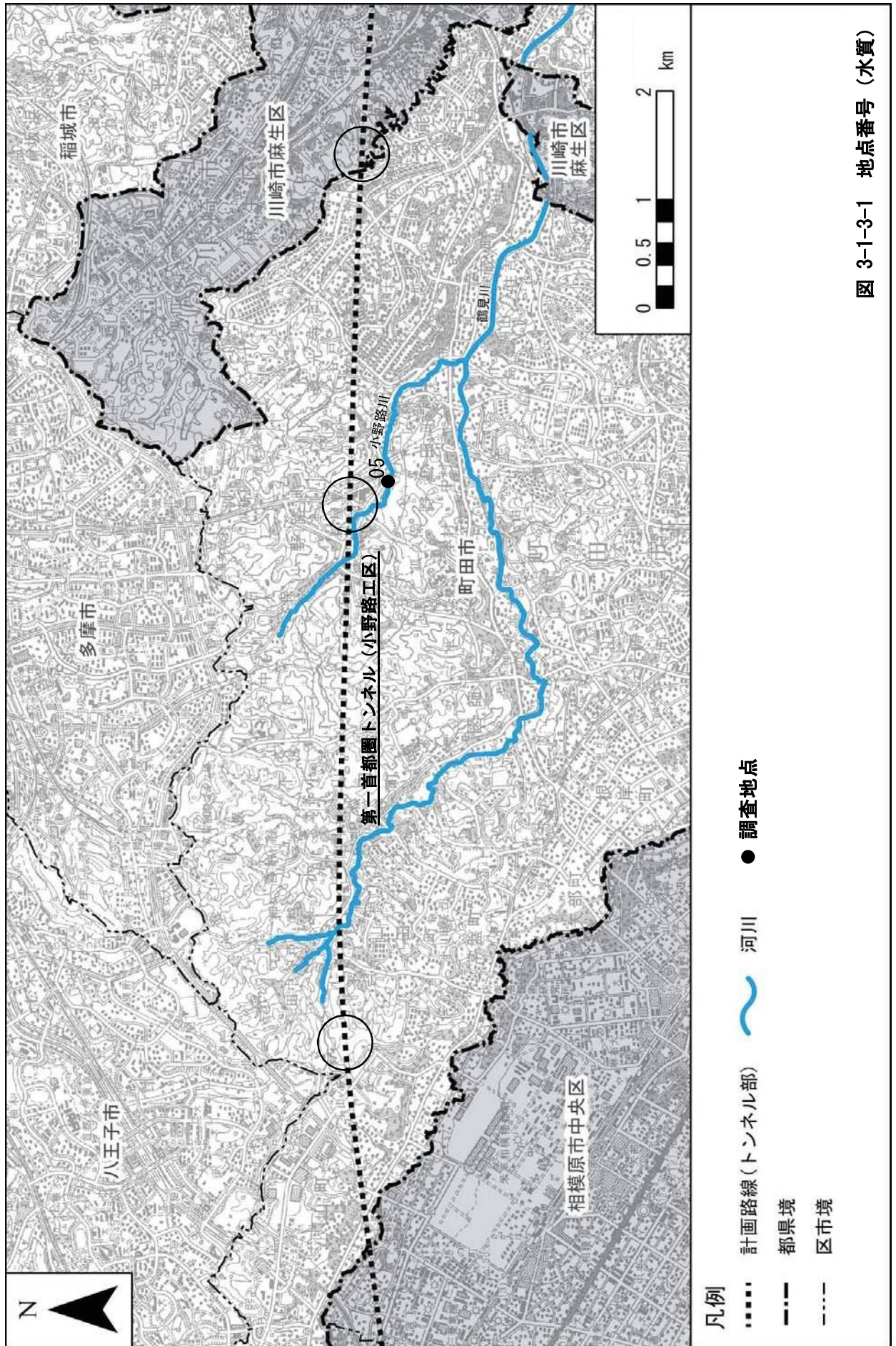


図 3-1-3-1 地点番号(水質)

3-1-4 調査期間

調査期間は、表 3-1-4-1 に示すとおりである。

表 3-1-4-1 調査期間

地点番号	対象河川	実施時期の種別	調査日	調査頻度
05	小野路川	工事中	豊水期：2025年8月19日 低水期：2026年1月9日	年2回

3-1-5 調査結果

調査結果は、表 3-1-5-1 に示すとおりである。各項目とも環境基準等に適合していた。

表 3-1-5-1 調査結果

地点番号	05		環境基準等※ ²	
対象河川	小野路川			
類型指定※ ¹	(D)			
調査時期	豊水期	低水期		
流量 (m ³ /s)	1.9×10 ⁻²	1.8×10 ⁻²	—	
浮遊物質 (SS) (mg/L)	2	<1	100mg/L 以下	
水温 (°C)	25.6	9.6	—	
気象の状況	晴れ	晴れ	—	
土質の状況	石、礫、砂	石、礫、砂	—	
水素イオン濃度 (pH)	7.3	7.2	6.0 以上 8.5 以下	
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム (mg/L)	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素 (mg/L)	0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	0.8mg/L 以下
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	1mg/L 以下

・「<」は未満を示す。

※1 類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

※2 浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

なお、工事中における小野路非常口からの工事排水の水質について、浮遊物質量、水温、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行っている。測定結果は下記のとおりであるが、値は年間最大値（水素イオン濃度及び水温は年間最大・最小値）を記載した。

小野路非常口の測定結果は、浮遊物質量が最大で 66mg/L、水素イオン濃度は 6.3～7.9 であり、いずれも排水基準等に適合した。水温は 1.0～26.0℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは 0.0003mg/L 未満、六価クロムは 0.07mg/L、水銀は 0.0005 mg/L 未満、セレンは 0.002mg/L、鉛は 0.001mg/L 未満、ヒ素 0.011mg/L、ふっ素は 0.37mg/L、ほう素は 0.2mg/L であり、いずれも排水基準等に適合した。

3-2 地下水

地下水について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-2-1 調査項目

調査項目は、地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所周辺の井戸の地下水の水位の状況とした。

3-2-2 調査方法

調査方法は、表 3-2-2-1 に示すとおりである。

表 3-2-2-1 調査方法

調査項目	調査方法
水位	「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に定める測定方法

3-2-3 調査地点

調査地点は、表 3-2-3-1、図 3-2-3-1 及び図 3-2-3-2 に示すとおりである。

表 3-2-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点	地表面標高	スレーナ-深度	地層名	
01	港区	港南	品川駅	01-①	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m~-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -56m~-66m	上総層群
				01-②	浅層	T. P. +2. 5m	T. P. -10m~-18m	東京層
					深層	T. P. +2. 5m	T. P. -46m~-66m	上総層群
				01-③'	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -12m~-18m	東京層
					深層	T. P. +3. 3m	T. P. -49m~-59m	上総層群
01-④	浅層	T. P. +3. 3m	T. P. -11m~-18m	東京層				
	深層	T. P. +3. 3m	T. P. -49m~-59m	上総層群				
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-①	浅層	T. P. +3. 0m	T. P. -12m~-20m	東京層
					深層	T. P. +3. 0m	T. P. -70m~-82m	上総層群
				02-②	浅層	T. P. +3. 0m	T. P. -12m~-20m	東京層
					深層	T. P. +3. 0m	T. P. -64m~-76m	上総層群
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①	浅層	T. P. +27m	T. P. +19m~+10m	東京層
					深層	T. P. +27m	T. P. -45m~-59m	上総層群
				03-②	浅層	T. P. +24m	T. P. +15m~+9m	東京層
					深層	T. P. +24m	T. P. -46m~-59m	上総層群
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①'	浅層	T. P. +78m	T. P. +70m~+46m	上総層群
					深層	T. P. +78m	T. P. -17m~-40m	上総層群
				04-②	浅層	T. P. +78m	T. P. +63m~+43m	上総層群
					深層	T. P. +78m	T. P. -23m~-44m	上総層群
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①	浅層	T. P. +149m	T. P. +119m~+109m	上総層群
					深層	T. P. +149m	T. P. +65m~+55m	上総層群
				06-②	浅層	T. P. +140m	T. P. +115m~+105m	上総層群
					深層	T. P. +140m	T. P. +65m~+55m	上総層群

※地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

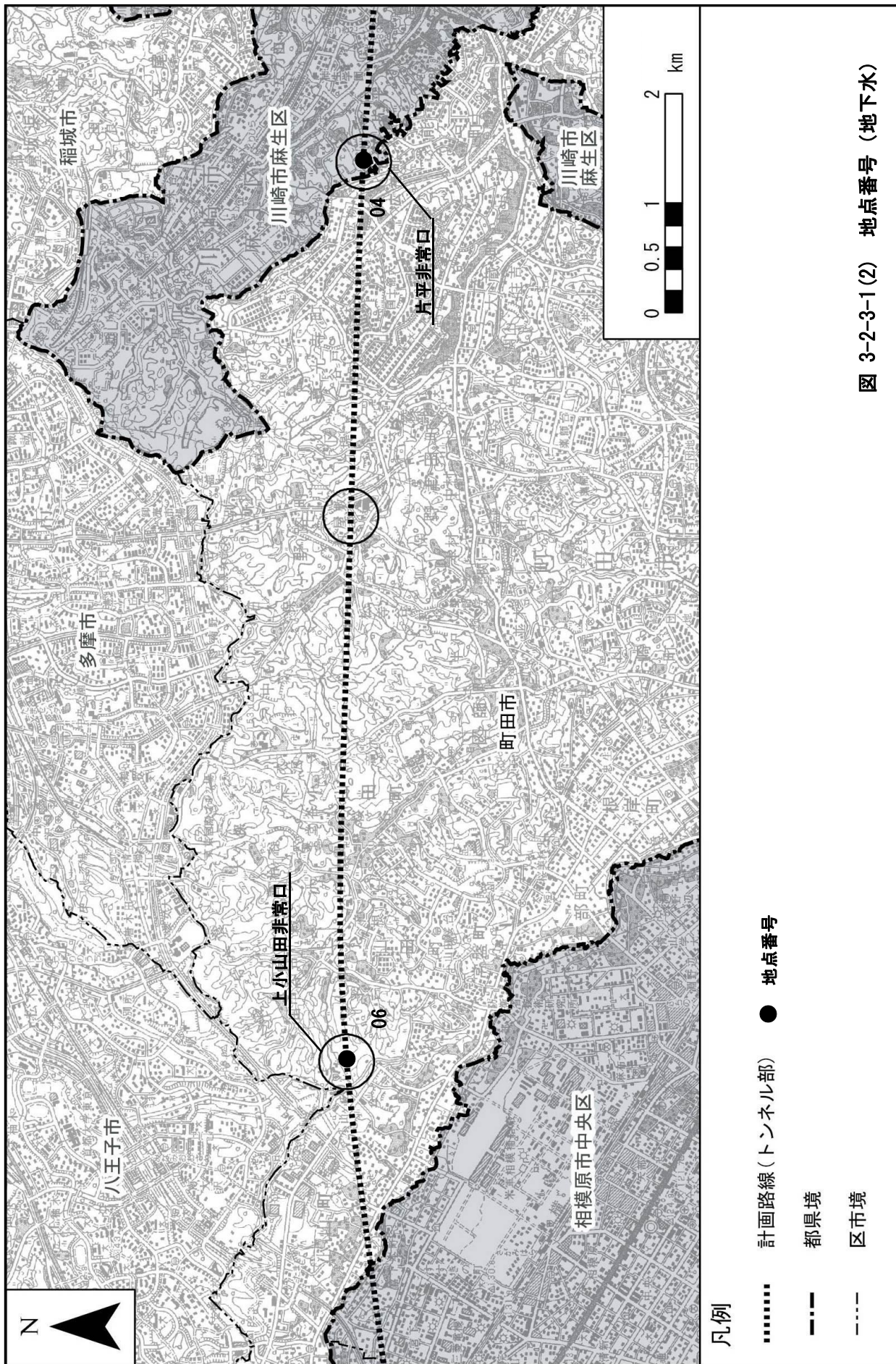


図 3-2-3-1(2) 地点番号 (地下水)

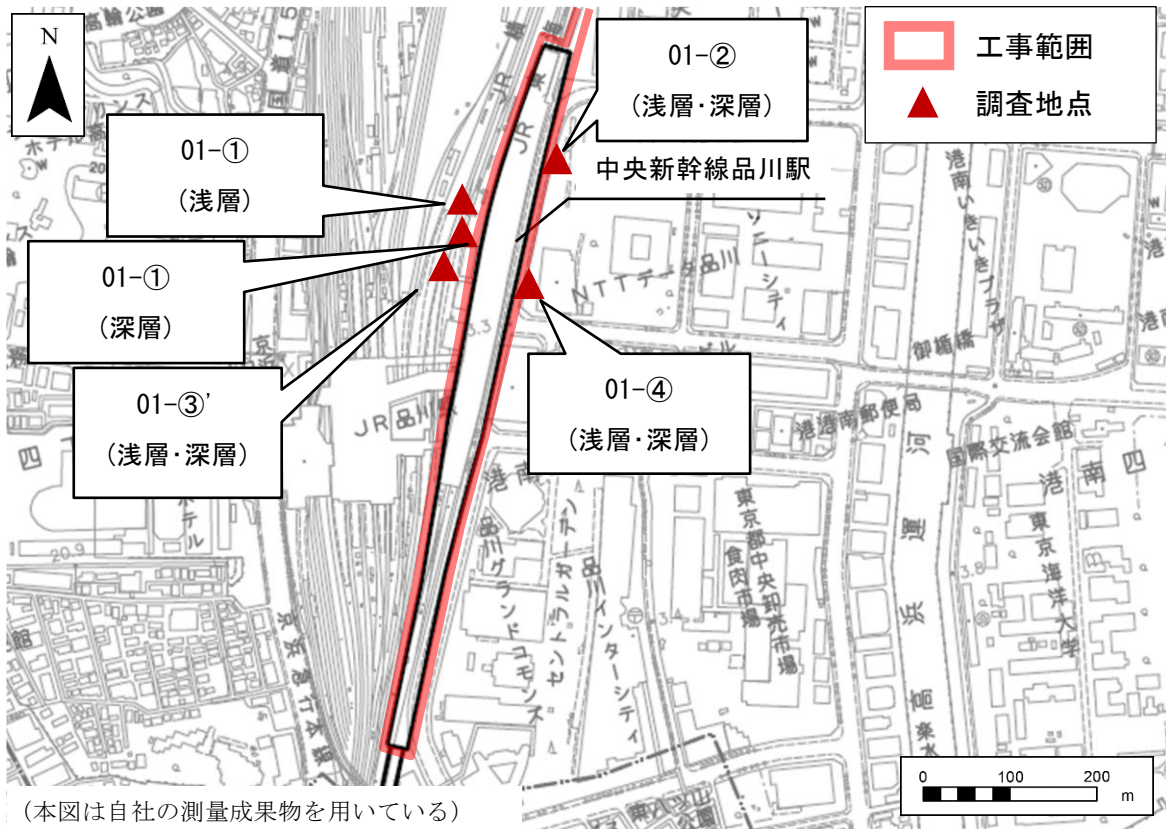


図 3-2-3-2(1) 調査地点 (地下水) (01 品川駅)

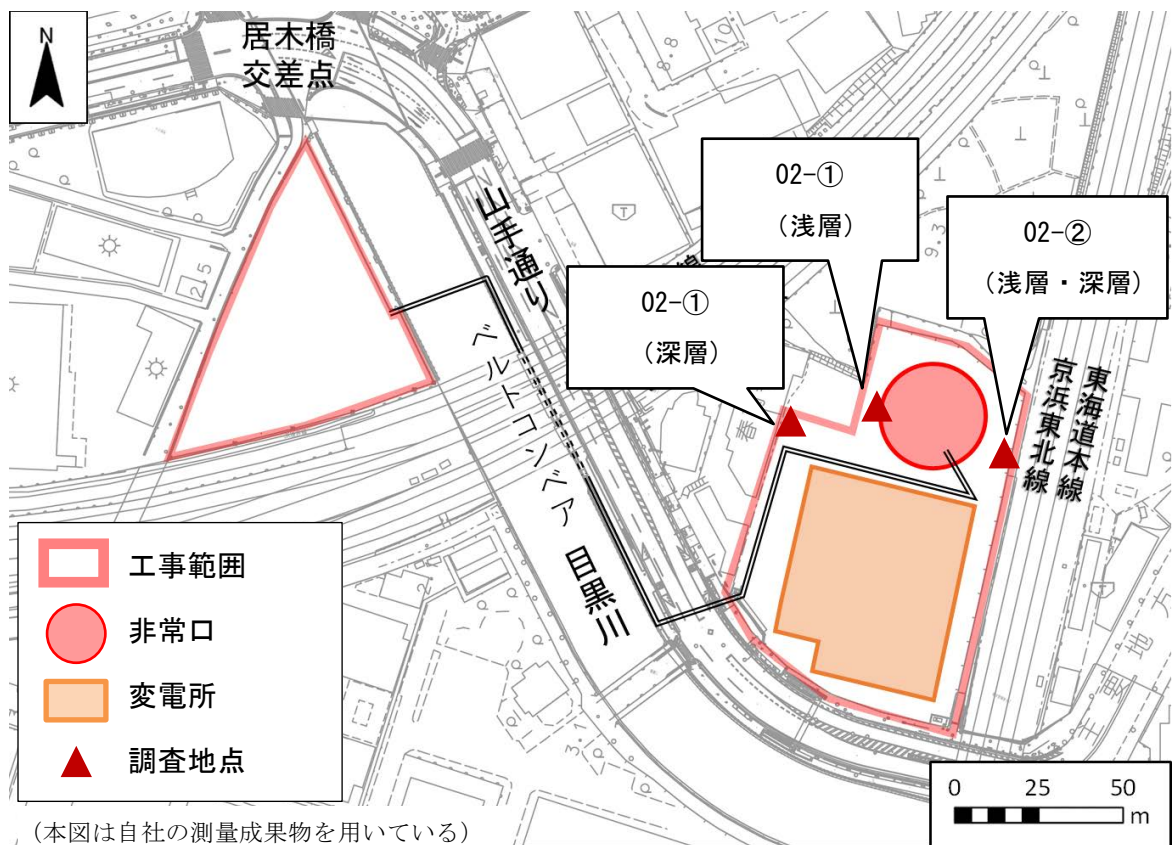


図 3-2-3-2(2) 調査地点 (地下水) (02 北品川)

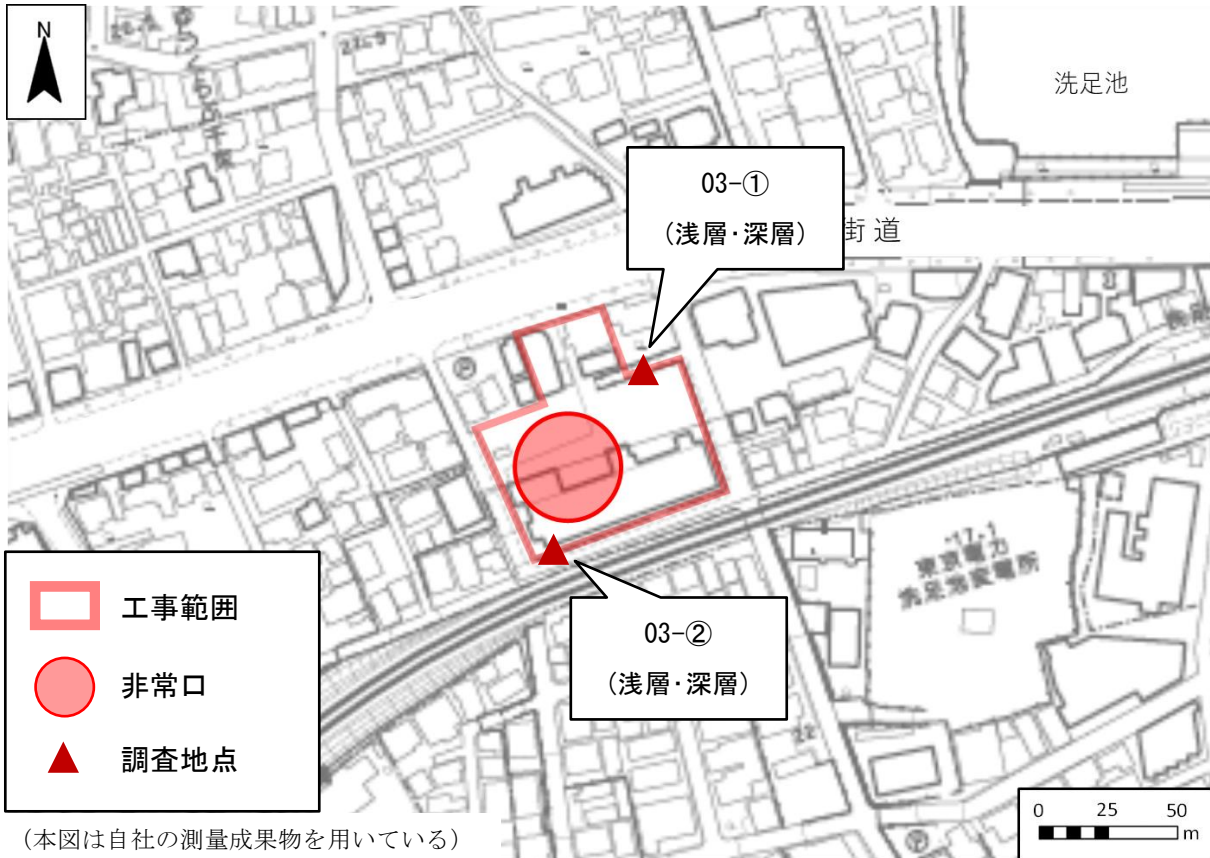


図 3-2-3-2(3) 調査地点 (地下水) (03 東雪谷)

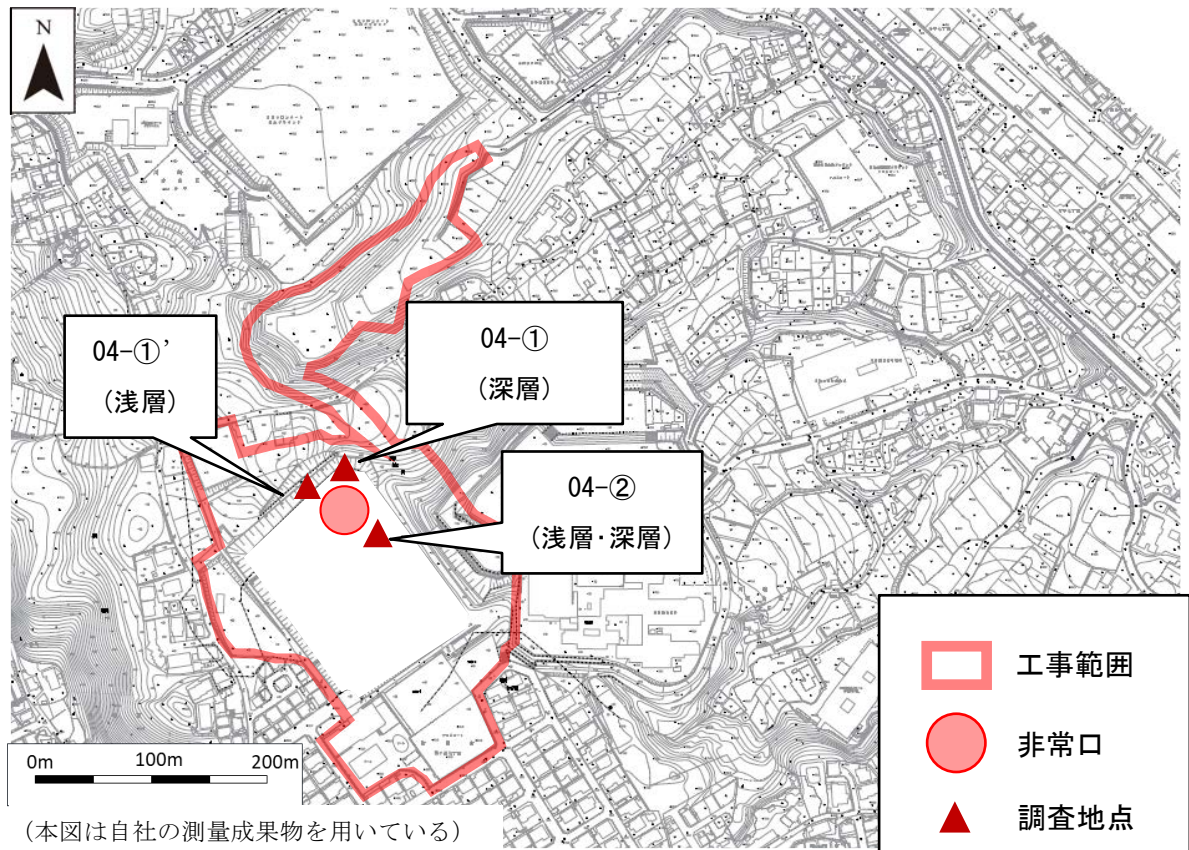


図 3-2-3-2(4) 調査地点 (地下水) (04 片平)

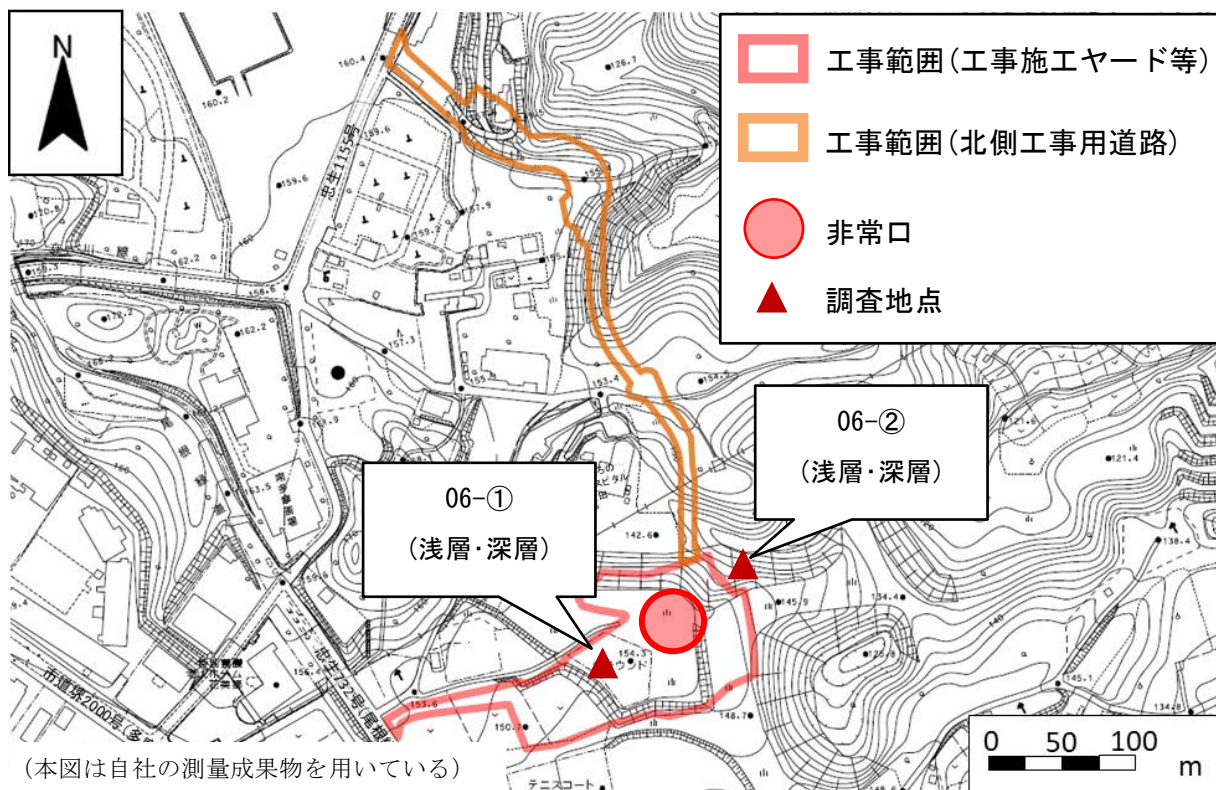


図 3-2-3-2(5) 調査地点(地下水) (06 上小山田)

3-2-4 調査期間

調査期間は、表 3-2-4-1 に示すとおりである。

表 3-2-4-1(1) 調査期間

地点番号	調査地点	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
01	01-① 01-② 01-③' 01-④	地下工事中	2025年 4月 1日～30日	自記水位計による 連続観測
			2025年 5月 1日～31日	
			2025年 6月 1日～30日	
			2025年 7月 1日～31日	
			2025年 8月 1日～31日	
			2025年 9月 1日～30日	
			2025年 10月 1日～31日	
			2025年 11月 1日～30日	
			2025年 12月 1日～31日	
			2026年 1月 1日～31日	
			2026年 2月 1日～28日	
			2026年 3月 1日～31日	
02	02-① 02-②	地下工事 完了後	2025年 4月 1日～30日	自記水位計による 連続観測
			2025年 5月 1日～31日	
			2025年 6月 1日～30日	
			2025年 7月 1日～31日	
			2025年 8月 1日～31日	
			2025年 9月 1日～30日	
			2025年 10月 1日～31日	
			2025年 11月 1日～30日	
			2025年 12月 1日～31日	
			2026年 1月 1日～31日	
			2026年 2月 1日～28日	
			2026年 3月 1日～31日	

表 3-2-4-1(2) 調査期間

地点番号	調査地点	実施時期の種別	調査期間	調査頻度
03	03-① 03-②	地下工事中	2025年 4月 1日～30日	自記水位計による 連続観測
			2025年 5月 1日～31日	
			2025年 6月 1日～30日	
			2025年 7月 1日～31日	
			2025年 8月 1日～31日	
			2025年 9月 1日～30日	
			2025年 10月 1日～31日	
			2025年 11月 1日～30日	
			2025年 12月 1日～31日	
			2026年 1月 1日～31日	
			2026年 2月 1日～28日	
			2026年 3月 1日～31日	
04	04-①' 04-① 04-②	地下工事中	2025年 4月 1日～30日	自記水位計による 連続観測
			2025年 5月 1日～31日	
			2025年 6月 1日～30日	
			2025年 7月 1日～31日	
			2025年 8月 1日～31日	
			2025年 9月 1日～30日	
			2025年 10月 1日～31日	
			2025年 11月 1日～30日	
			2025年 12月 1日～31日	
			2026年 1月 1日～31日	
			2026年 2月 1日～28日	
			2026年 3月 1日～31日	
06	06-①	地下工事 完了後*	2025年 4月 1日～30日	自記水位計による 連続観測
	06-②		2025年 5月 1日～31日	

※工事完了（2024年5月）以降、地下水位が安定していることを確認し、5月に調査を完了した。

3-2-5 調査結果

調査結果は、図 3-2-5-1 に示すとおりである。なお、水位は東京湾平均海面 (T.P.) を 0m とした場合の高さを示す。

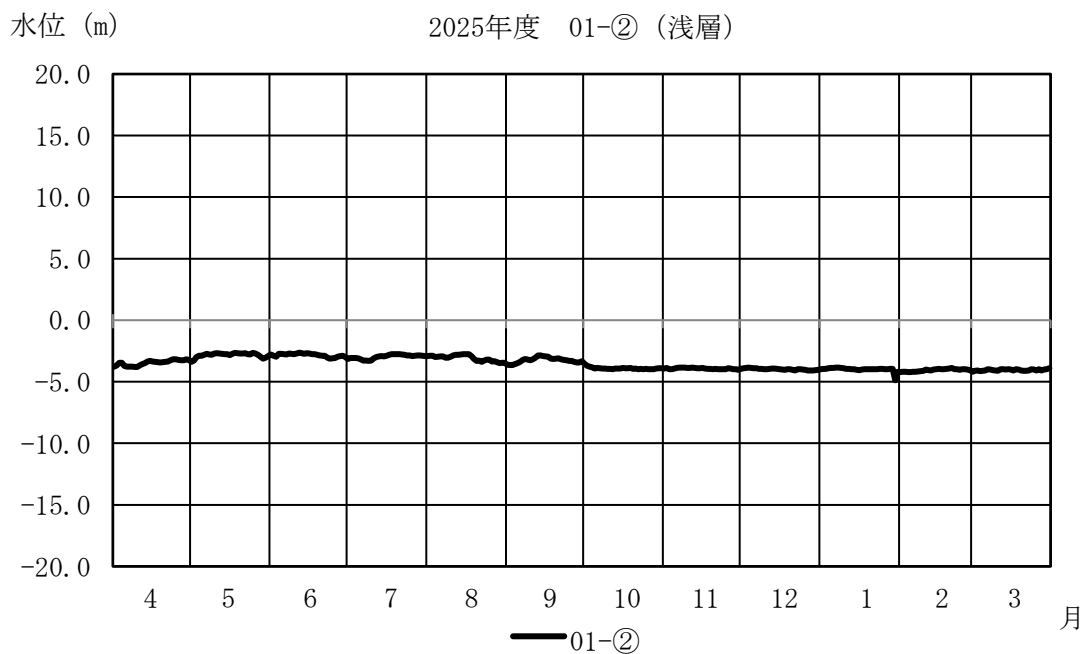
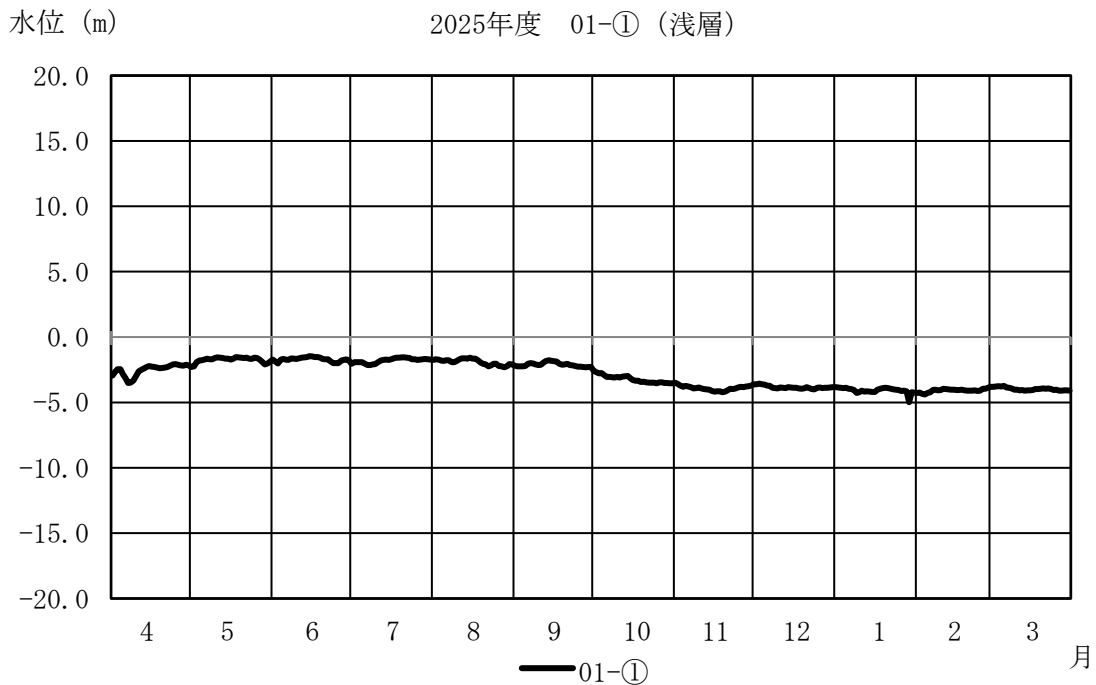
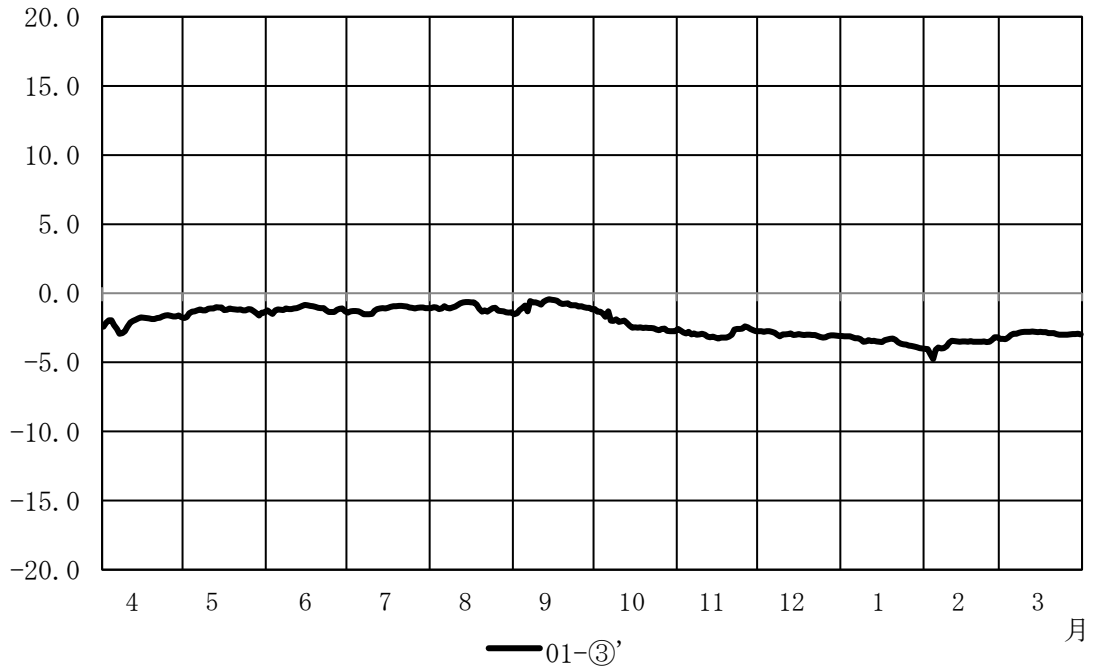


図 3-2-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅 (浅層))

水位 (m)

2025年度 01-③' (浅層)



水位 (m)

2025年度 01-④ (浅層)

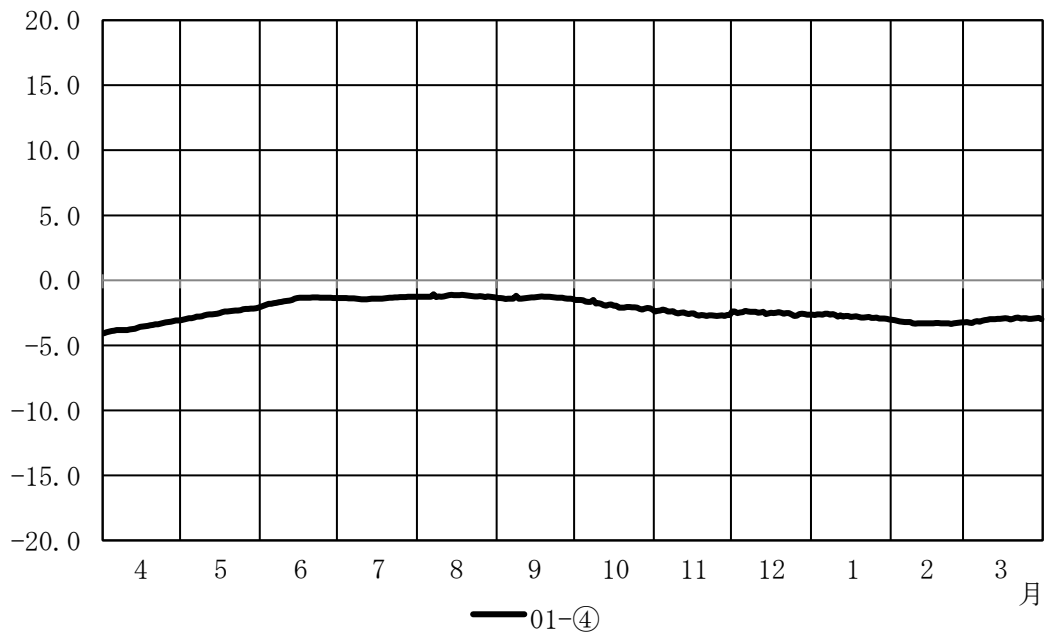
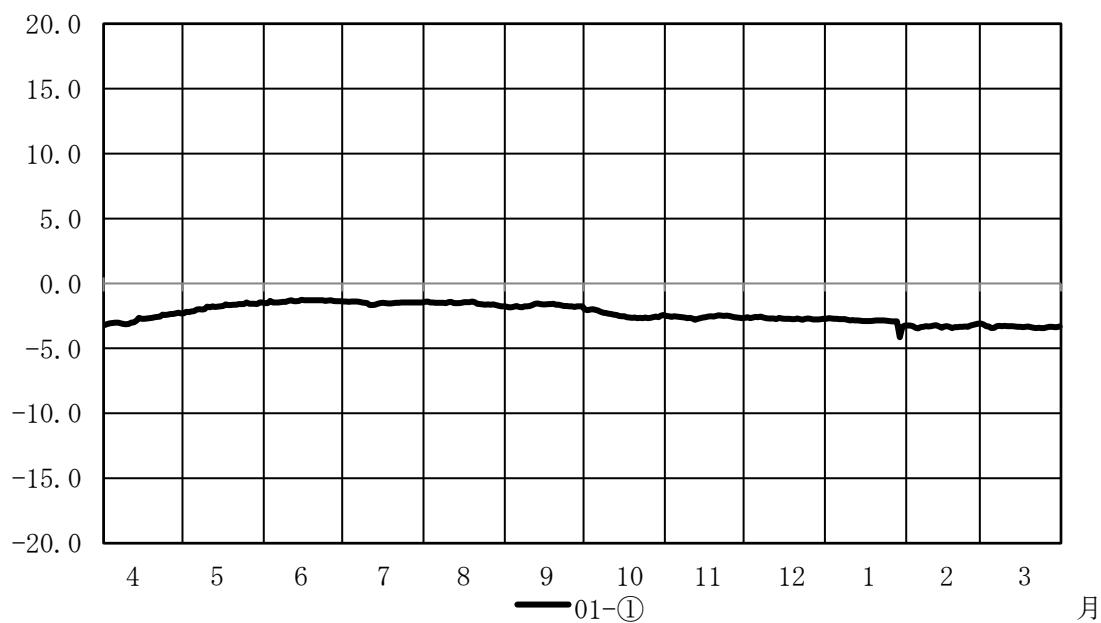


図 3-2-5-1(2) 調査結果 (01 品川駅 (浅層))

水位 (m)

2025年度 01-① (深層)



水位 (m)

2025年度 01-② (深層)

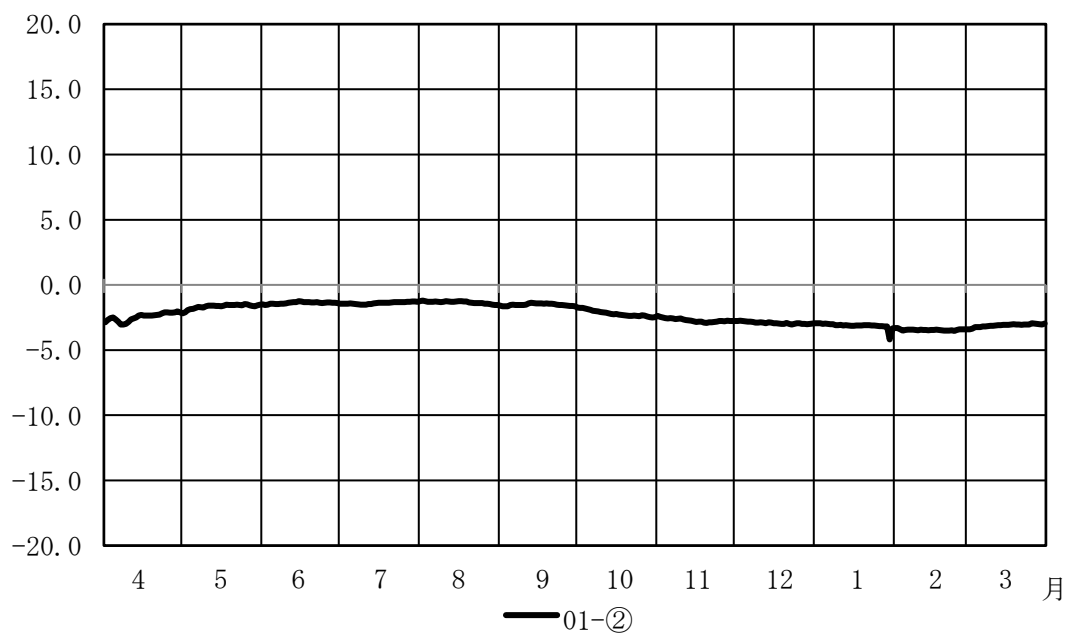


図 3-2-5-1(3) 調査結果 (01 品川駅 (深層))

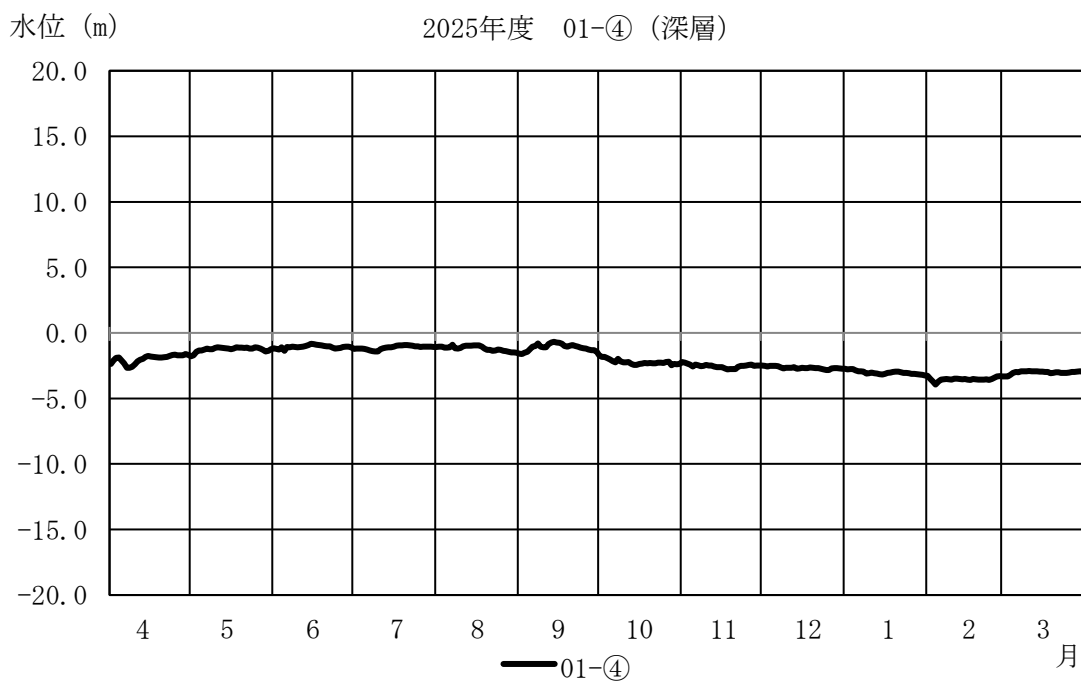
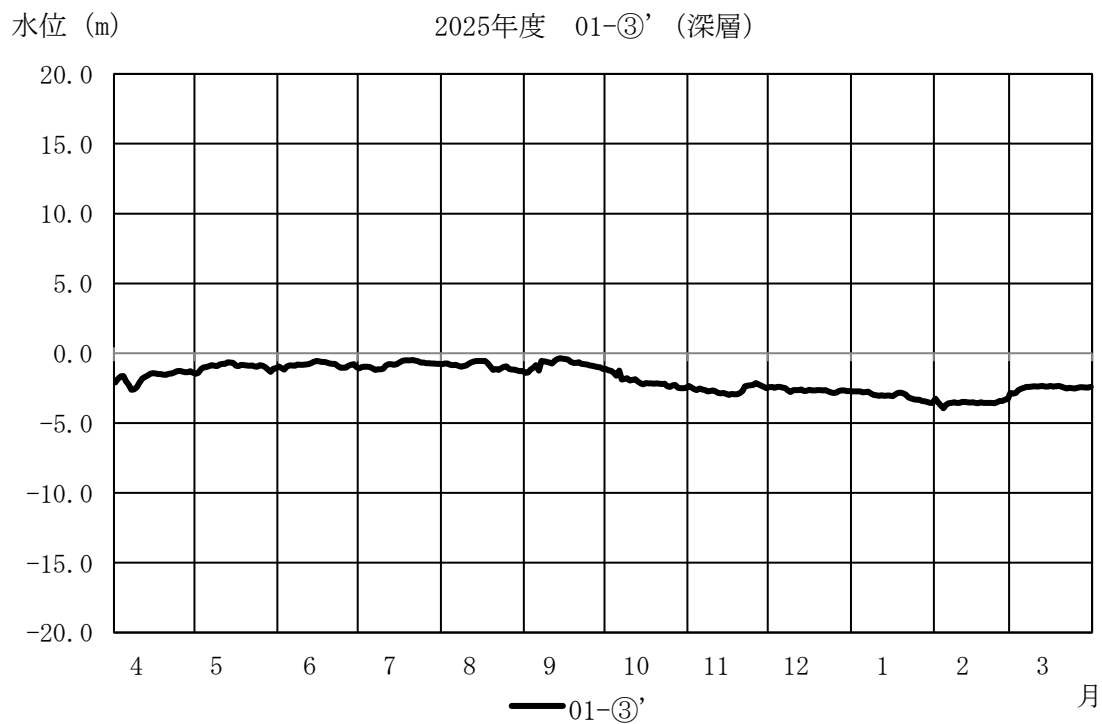
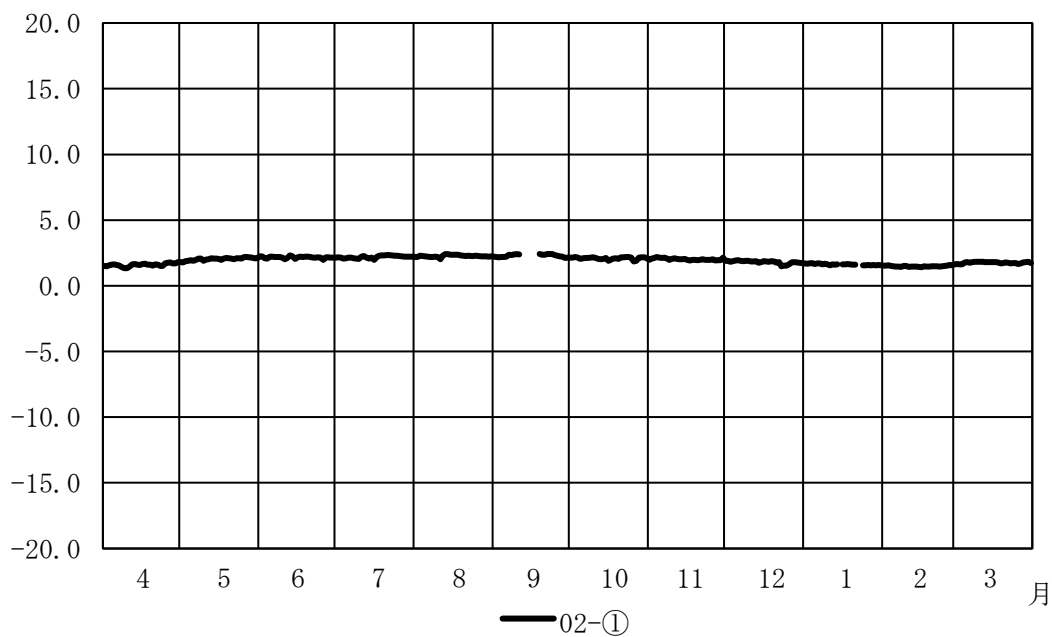


図 3-2-5-1(4) 調査結果 (01 品川駅 (深層))

水位 (m)

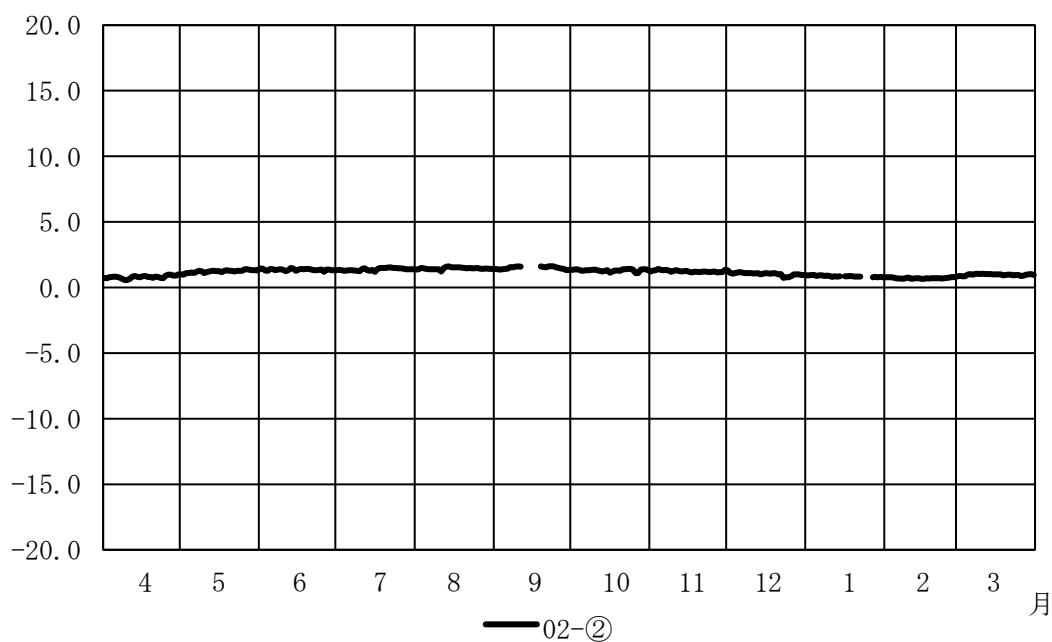
2025年度 02-① (浅層)



・2025年9月、2026年1月に水位計のメンテナンスを実施したため一時的に欠測となった。

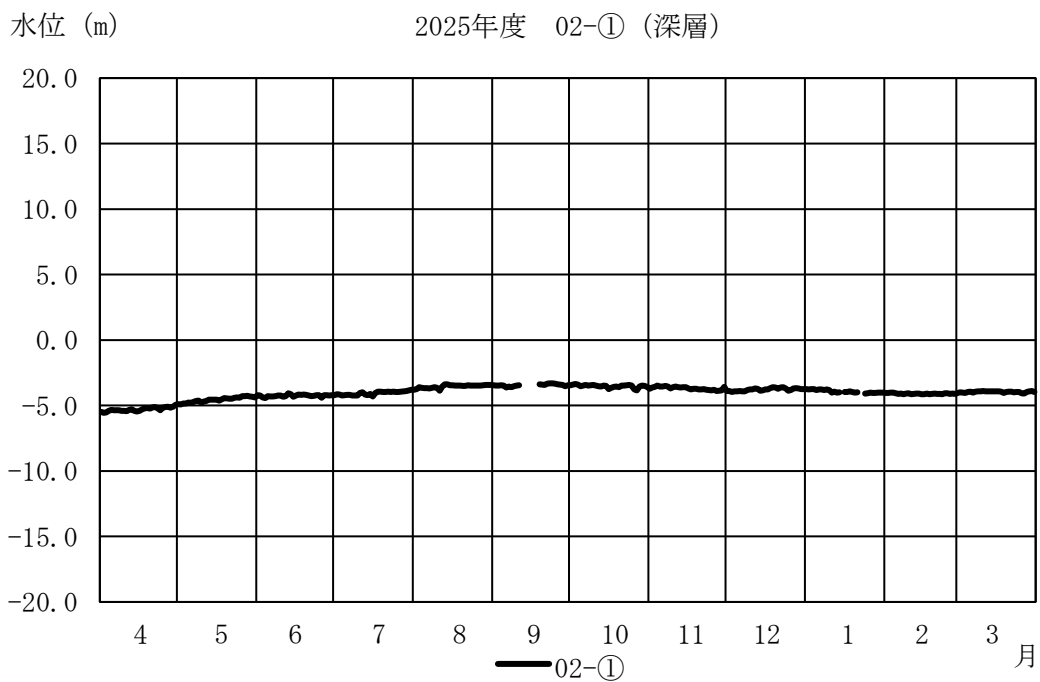
水位 (m)

2025年度 02-② (浅層)

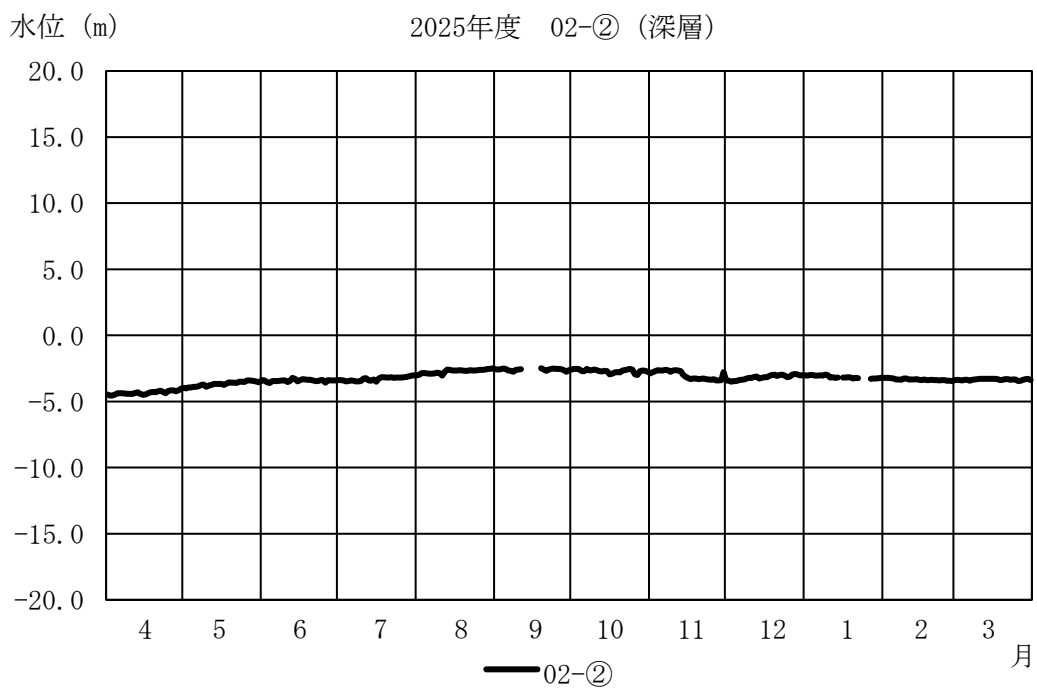


・2025年9月、2026年1月に水位計のメンテナンスを実施したため、一時的に欠測となった。

図 3-2-5-1(5) 調査結果 (02 北品川 (浅層))



・ 2025年9月、2026年1月に水位計のメンテナンスを実施したため、一時的に欠測となった。

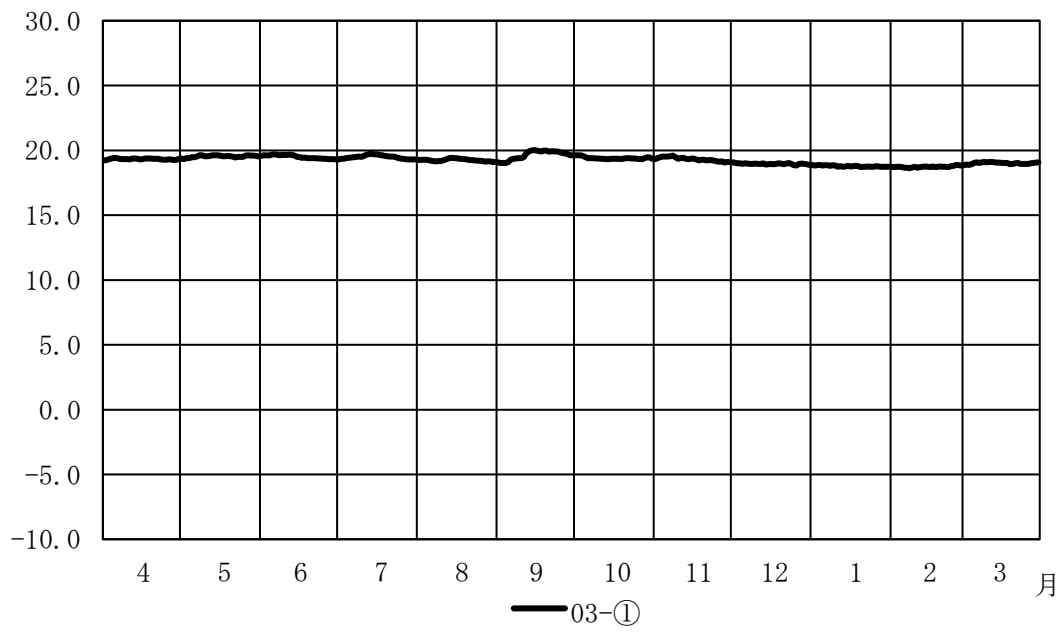


・ 2025年9月、2026年1月に水位計のメンテナンスを実施したため、一時的に欠測となった。

図 3-2-5-1(6) 調査結果 (02 北品川 (深層))

水位 (m)

2025年度 03-① (浅層)



水位 (m)

2025年度 03-② (浅層)

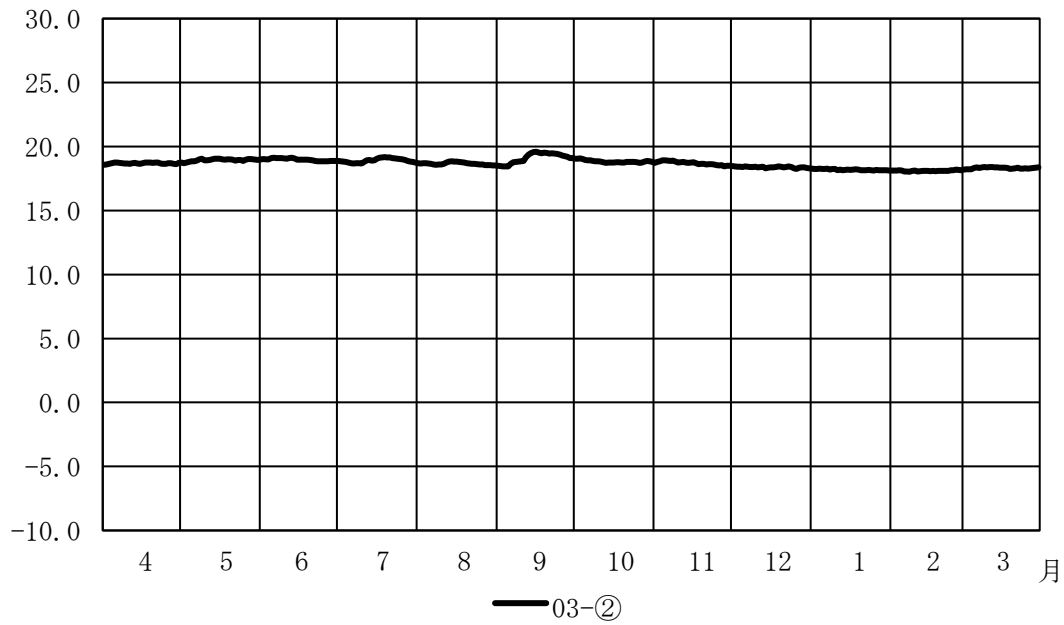


図 3-2-5-1(7) 調査結果 (03 東雪谷 (浅層))

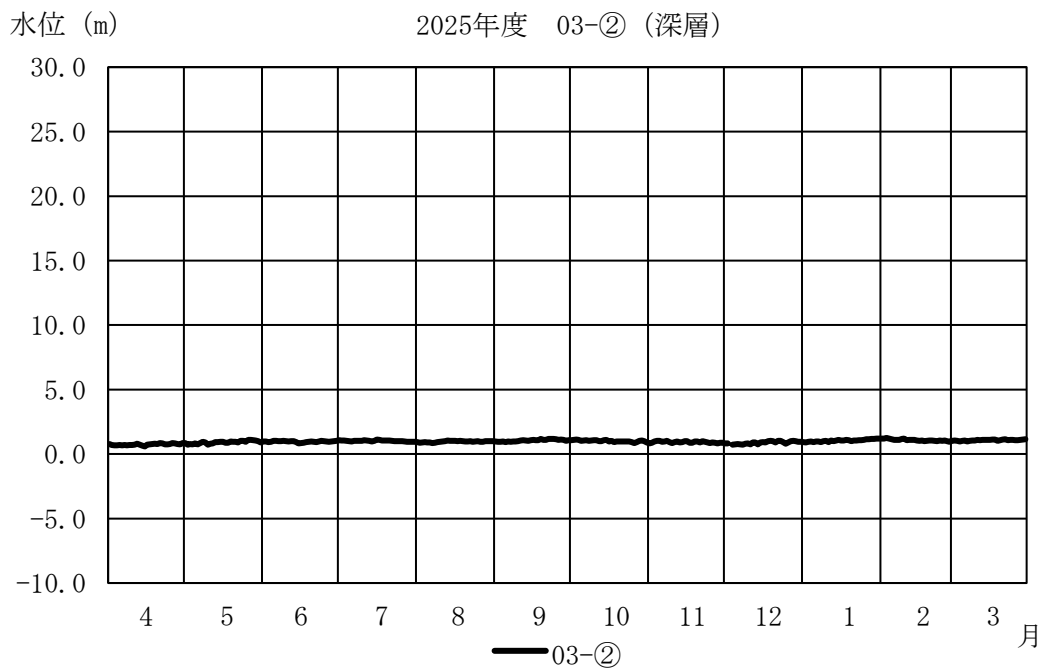
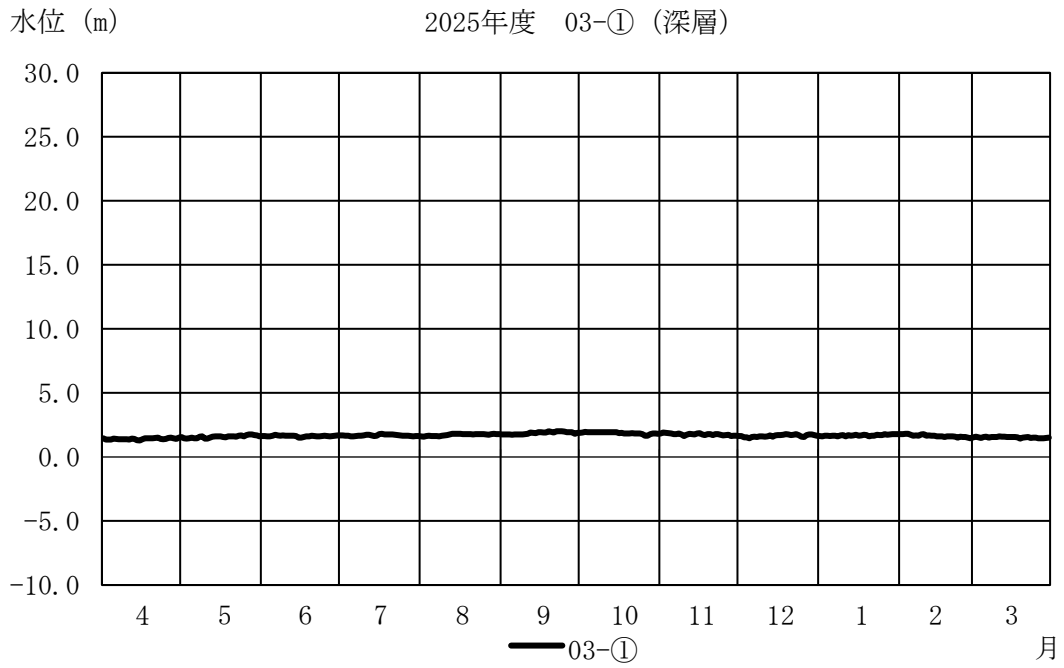
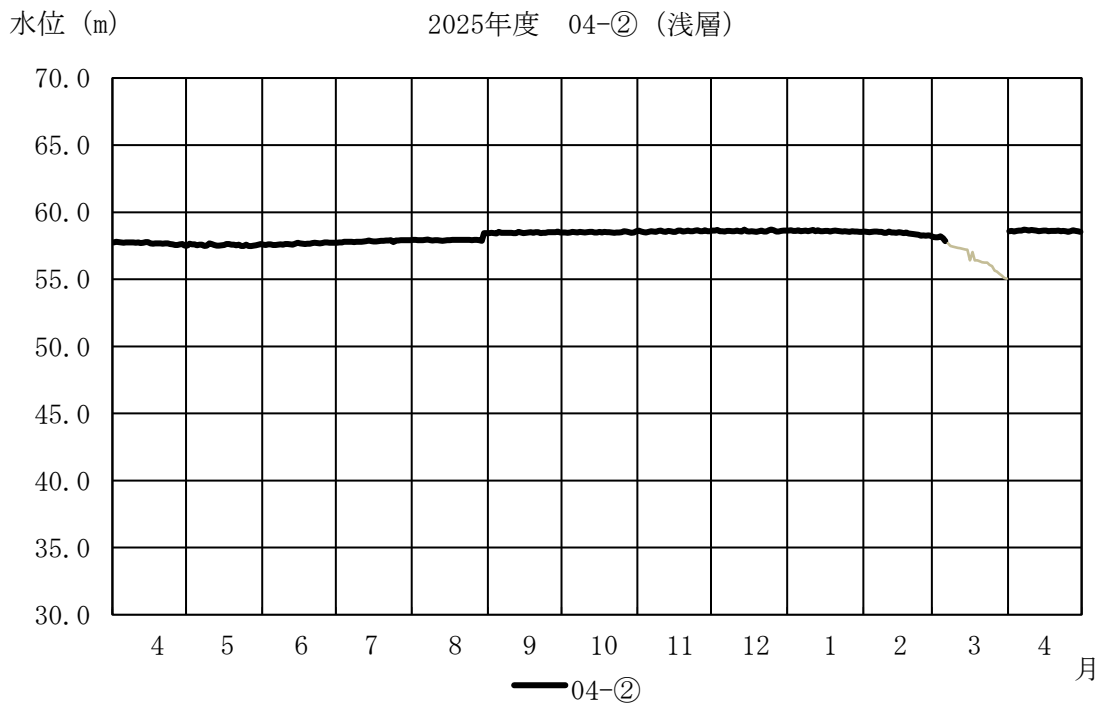
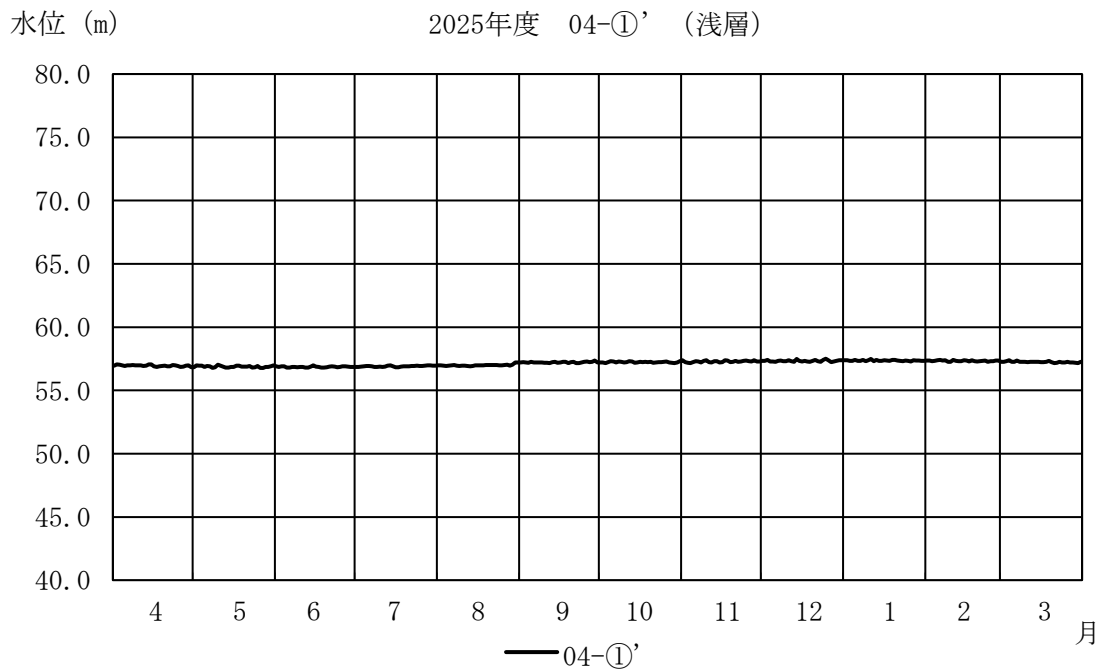


図 3-2-5-1(8) 調査結果 (03 東雪谷 (深層))



・2026年3月は、水位計の絶縁線劣化による故障により水位を正しく計測できていないため、参考として灰色の線で記載した。なお、地下水位に変動を与えるような作業を実施していないことやその他の観測井戸に水位変動が見られないことから、工事による影響ではないと考えられる。4月に水位計を修理して再度計測したところ故障前と同程度の水位であった。

図 3-2-5-1(9) 調査結果 (04 片平 (浅層))

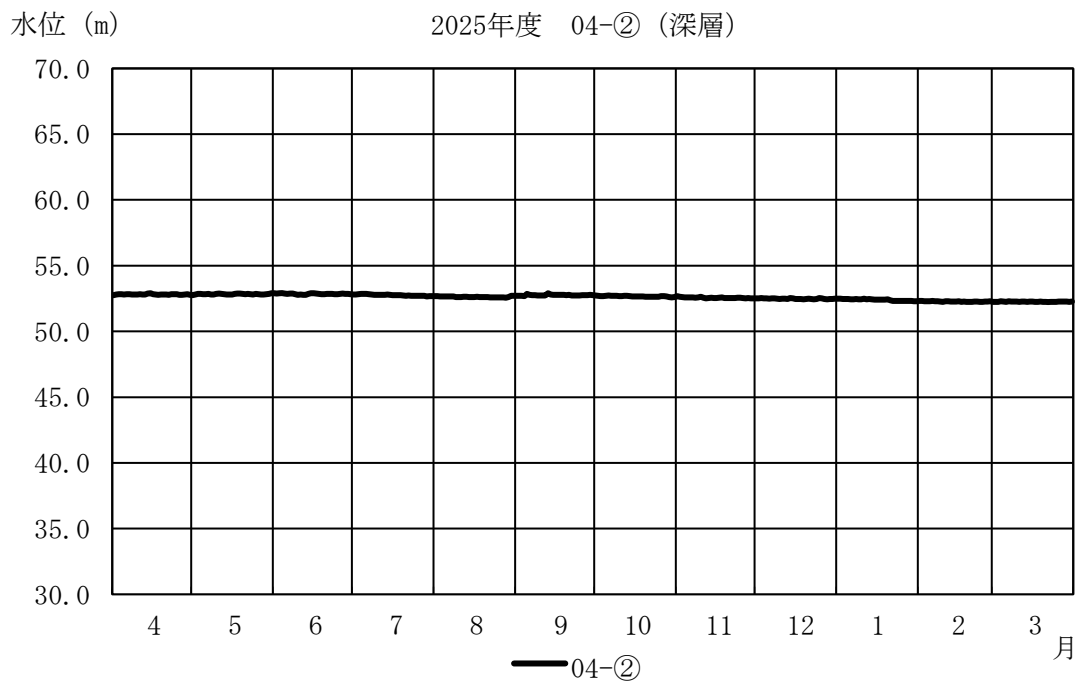
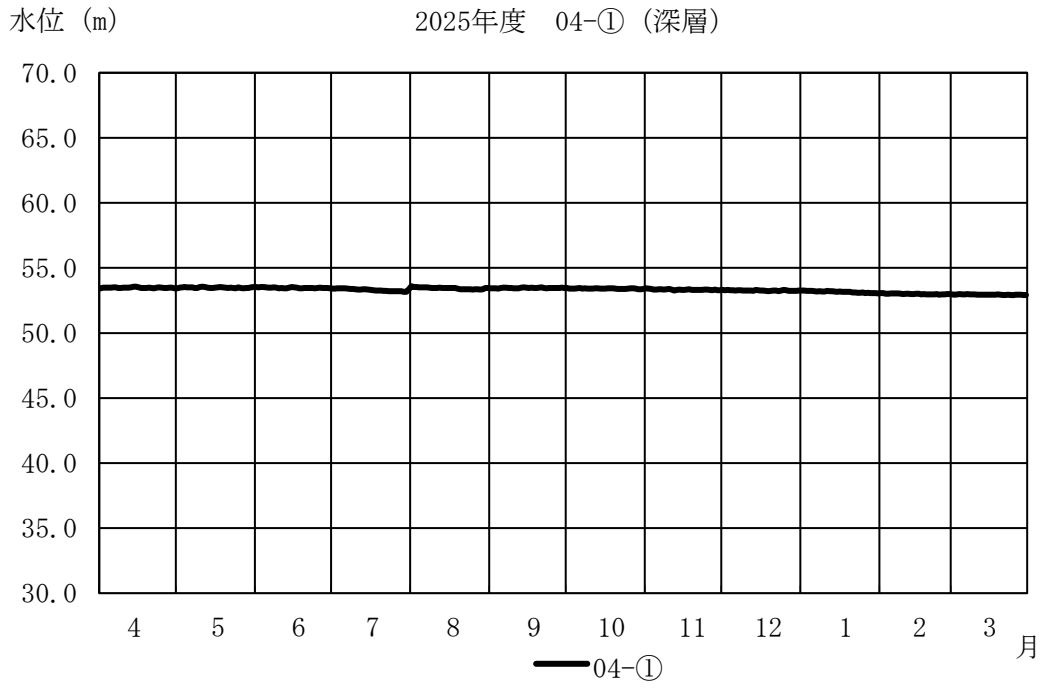
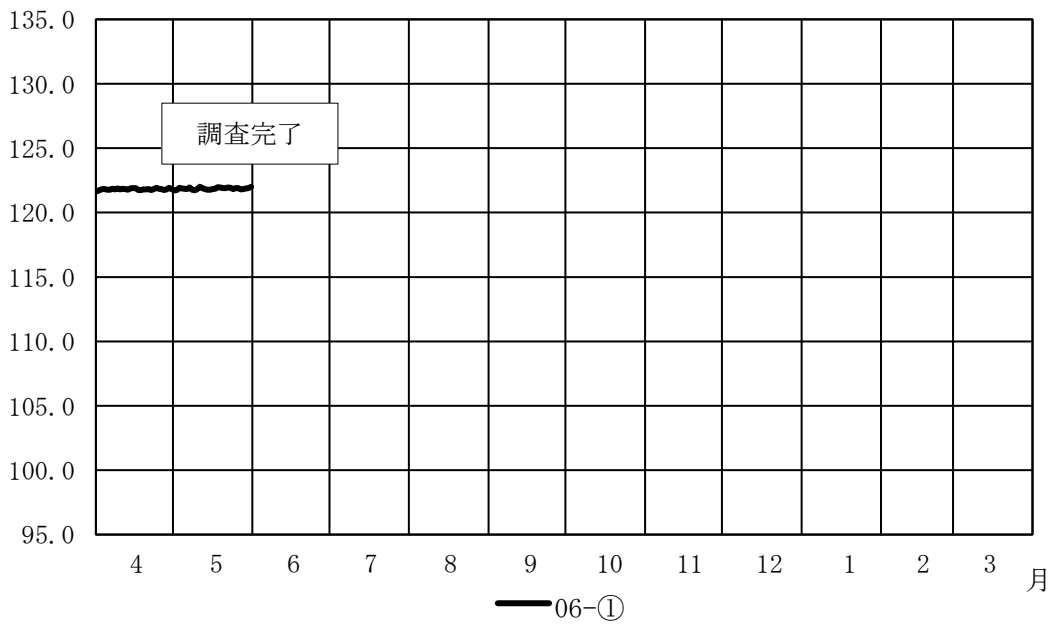


図 3-2-5-1(10) 調査結果 (04 片平 (深層))

水位 (m)

2025年度 06-① (浅層)



水位 (m)

2025年度 06-② (浅層)

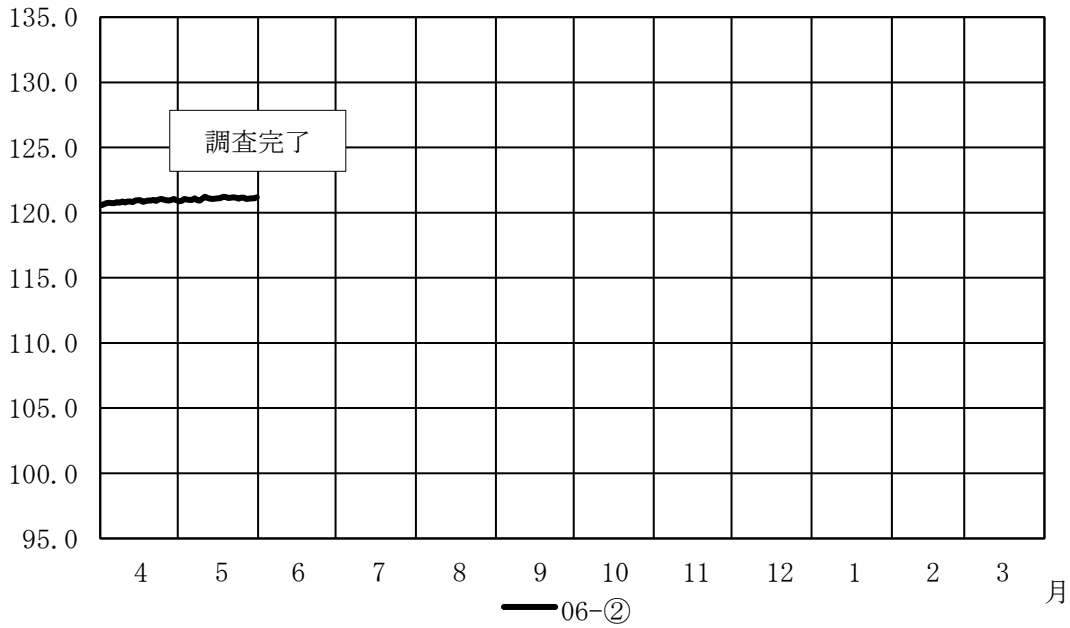
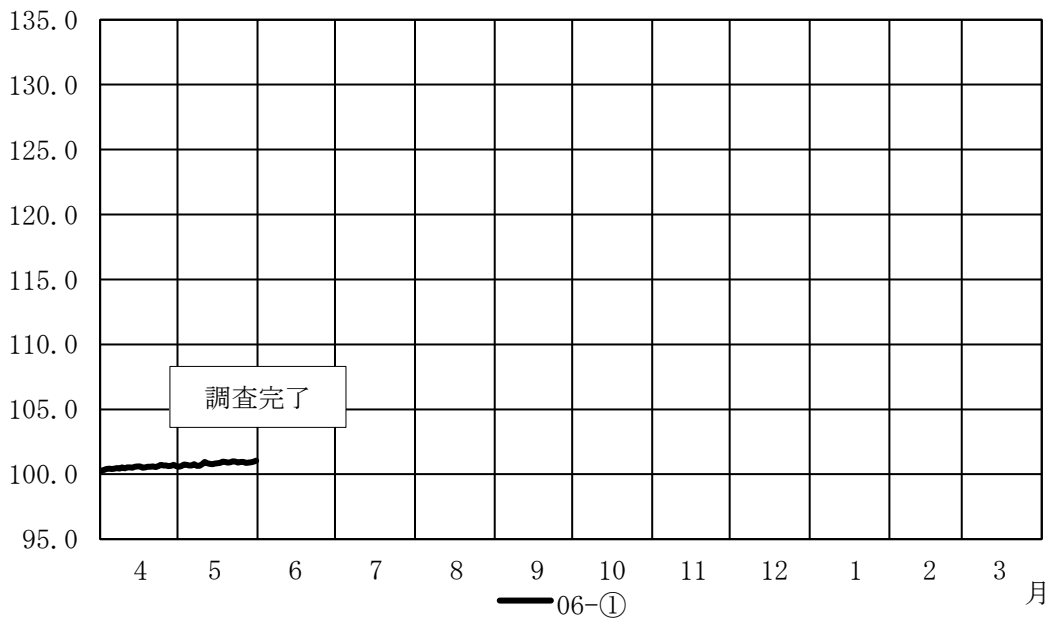


図 3-2-5-1(11) 調査結果 (06 上小山田 (浅層))

水位 (m)

2025年度 06-① (深層)



水位 (m)

2025年度 06-② (深層)

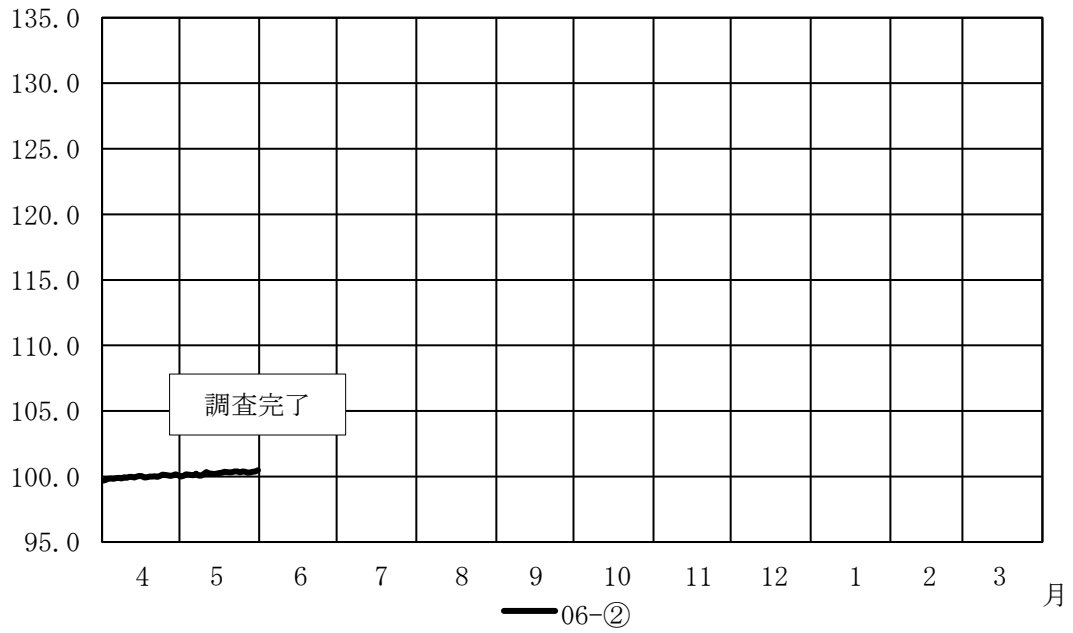


図 3-2-5-1(12) 調査結果 (06 上小山田 (深層))

3-3 水資源（地下駅及び非常口（都市部））

水資源（井戸）について、工事中のモニタリングを実施した。

3-3-1 調査項目

調査項目は、自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び水素イオン濃度（pH）の状況とした。

3-3-2 調査方法

調査方法は、表 3-3-2-1 に示すとおりである。

表 3-3-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023年度版）」（令和5年3月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する。
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	
水素イオン濃度（pH）		「地下水調査および観測指針（案）」（1993年3月、建設省河川局監修）に準拠する。

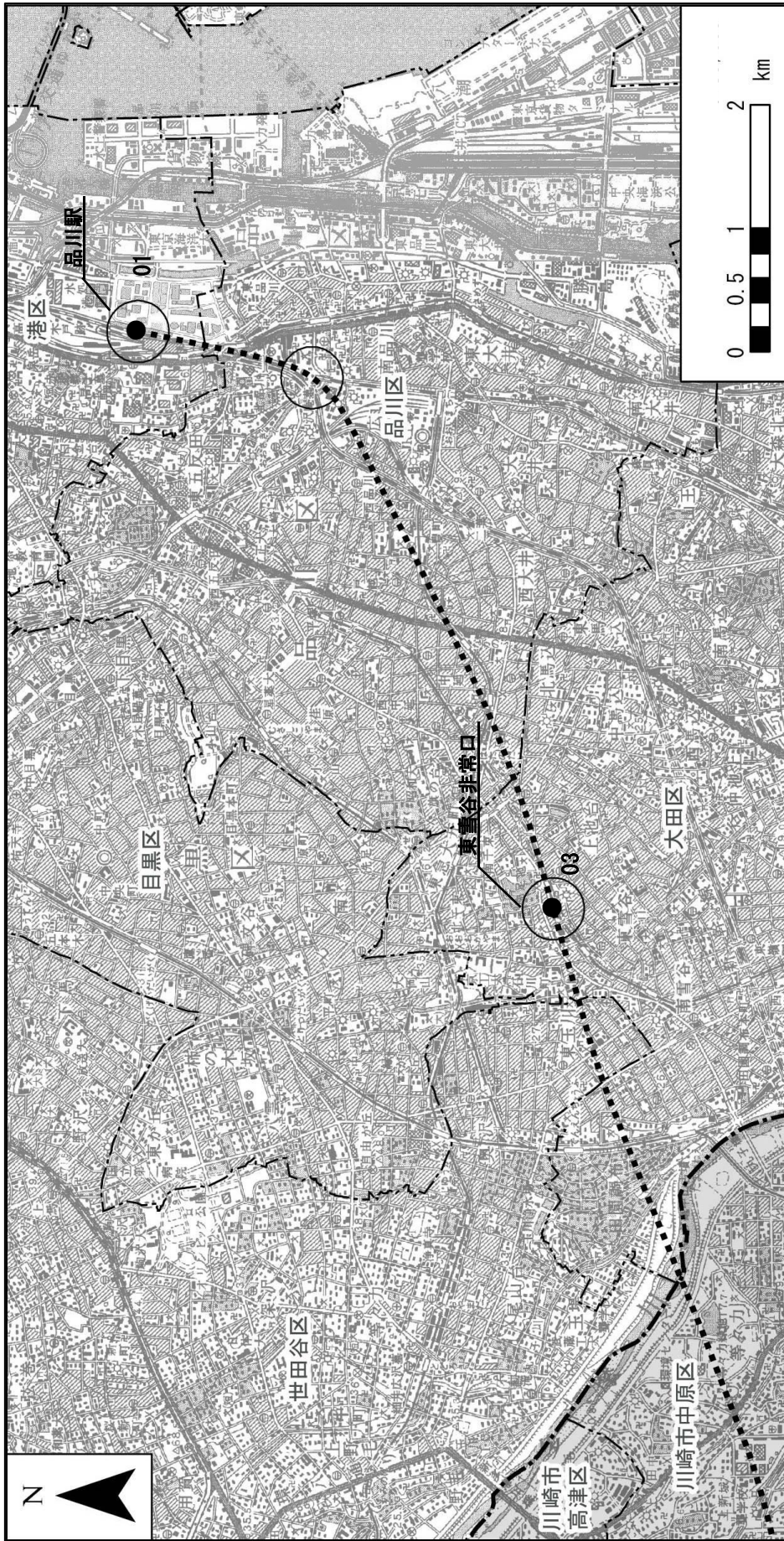
3-3-3 調査地点

調査地点は、表 3-3-3-1、図 3-3-3-1 及び図 3-3-3-2 に示すとおりである。

表 3-3-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点		調査項目
01	港区	港南	品川駅	01-①	浅層	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)
					深層	
				01-②	浅層	
					深層	
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①	浅層	
					深層	
				03-②	浅層	
					深層	
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①	浅層	
					深層	
				04-②	浅層	
					深層	

※地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 地点番号
- 都県境
- · - · 区市境

図 3-3-3-1(1) 地点番号(水資源)

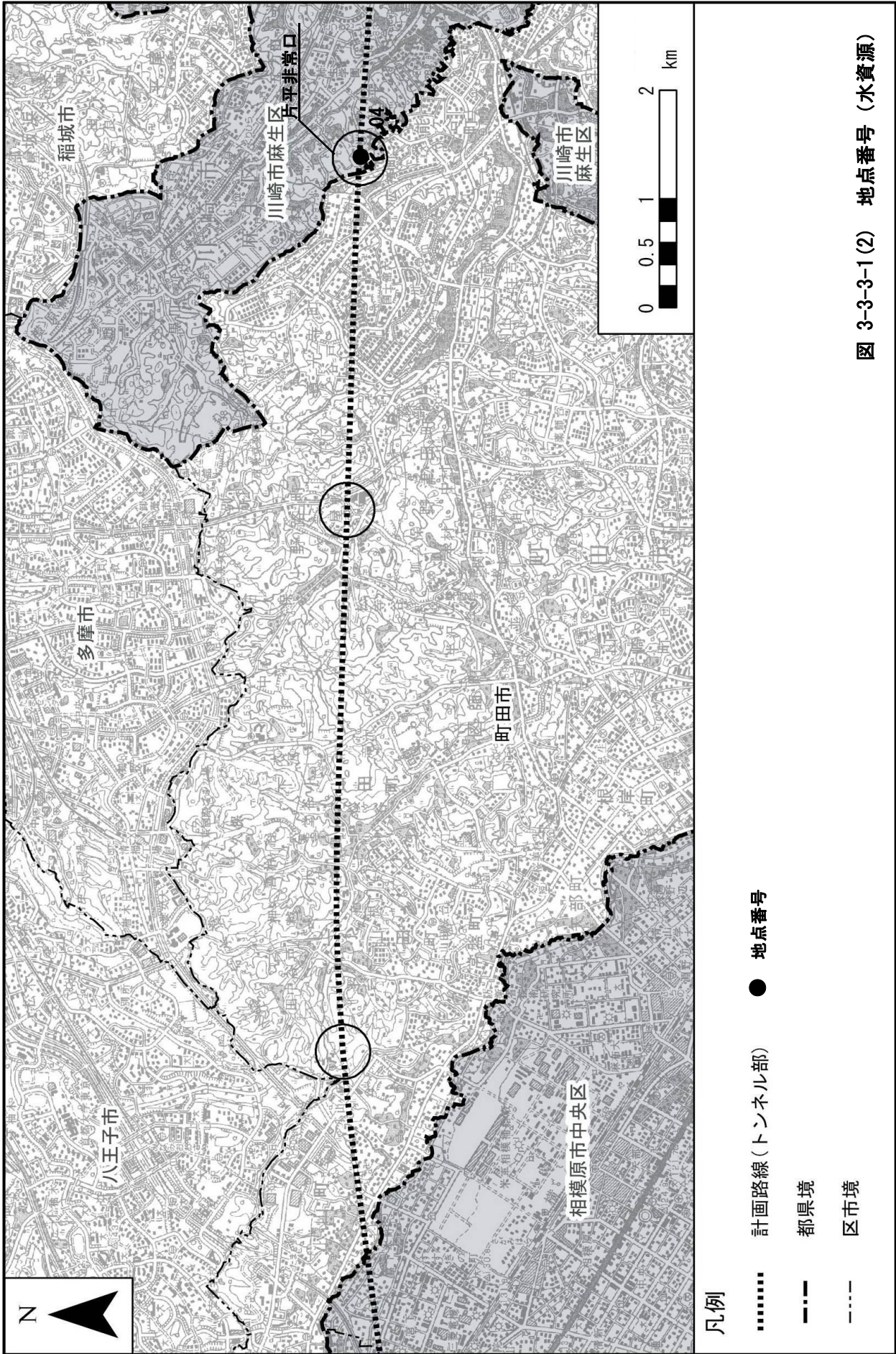


図 3-3-3-1(2) 地点番号 (水資源)

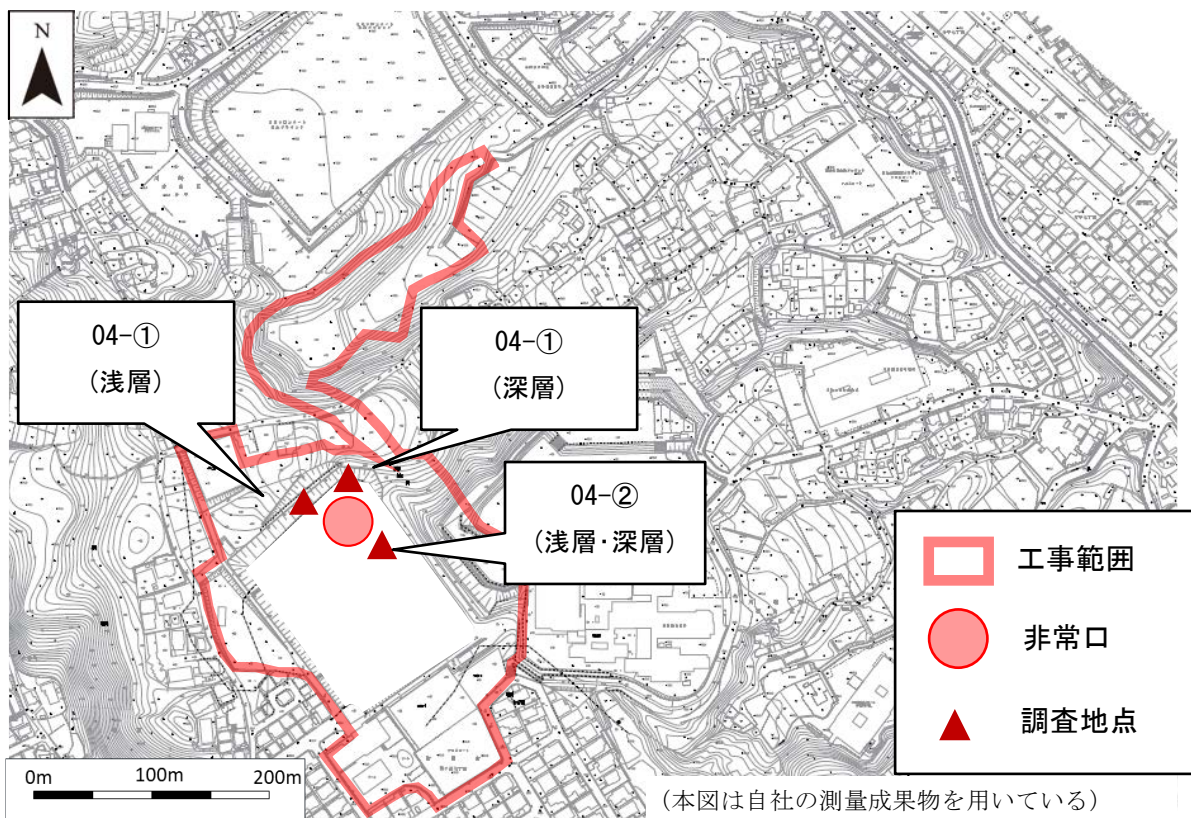


図 3-3-3-2(3) 調査地点（水資源）（04 片平）

3-3-4 調査期間

調査期間は、表 3-3-4-1 に示すとおりである。

表 3-3-4-1 調査期間

地点番号	調査地点	調査項目	実施時期の種別	調査日
01	01-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	2026 年 1 月 30 日 (浅層)
				2026 年 1 月 30 日 (深層)
	01-②			2026 年 1 月 30 日 (浅層)
				2026 年 1 月 30 日 (深層)
03	03-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	2025 年 12 月 5 日 (浅層)
				2025 年 12 月 5 日 (深層)
	03-②			2025 年 12 月 4 日 (浅層)
				2025 年 12 月 4 日 (深層)
04	04-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)	地下工事中	2026 年 1 月 21 日 (浅層)
				2026 年 1 月 21 日 (深層)
	04-②			2026 年 1 月 21 日 (浅層)
				2026 年 1 月 21 日 (深層)

3-3-5 調査結果

調査結果は、表 3-3-5-1 に示すとおりである。

自然由来の重金属等について、調査地点 01-②の観測井で、ほう素が環境基準の値を上回っていた。その他の地点においては、いずれも環境基準の値に適合していた。

表 3-3-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅)

調査項目		調査地点				環境基準※
		01-①		01-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	0.002	<0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.001	0.004	0.002	0.002	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.18	0.23	0.45	0.3	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.3	1.0	0.3	1.3	1mg/L 以下
水素イオン濃度(pH)		7.9	8.5	7.9	8.3	—

・「<」は未満を示す。

※「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

表 3-3-5-1(2) 調査結果 (03 東雪谷)

調査項目		調査地点				環境基準※
		03-①		03-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.7	6.6	6.7	7.9	—

・「<」は未満を示す。

※「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

表 3-3-5-1(3) 調査結果 (04 片平)

調査項目		調査地点				環境基準※
		04-①		04-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	0.004	<0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.001	0.003	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.08	0.13	<0.08	0.09	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.9	6.9	6.6	7.2	—

・「<」は未満を示す。

※「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

3-4 地盤沈下

工事実施箇所周辺における地盤沈下について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-4-1 調査項目

調査項目は、地盤の高さとした。

3-4-2 調査方法

調査方法は、工事前に地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所周辺に設置した測量標を用いた水準測量とした。

3-4-3 調査地点

調査地点は、表 3-4-3-1、図 3-4-3-1 及び図 3-4-3-2 に示すとおりである。

表 3-4-3-1 調査地点

地点番号*	区市名	所在地	実施箇所	調査地点
01	港区	港南	品川駅	01-①
				01-②
				01-③
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-③
				02-⑤
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-②
				03-③
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①
				06-③

※地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

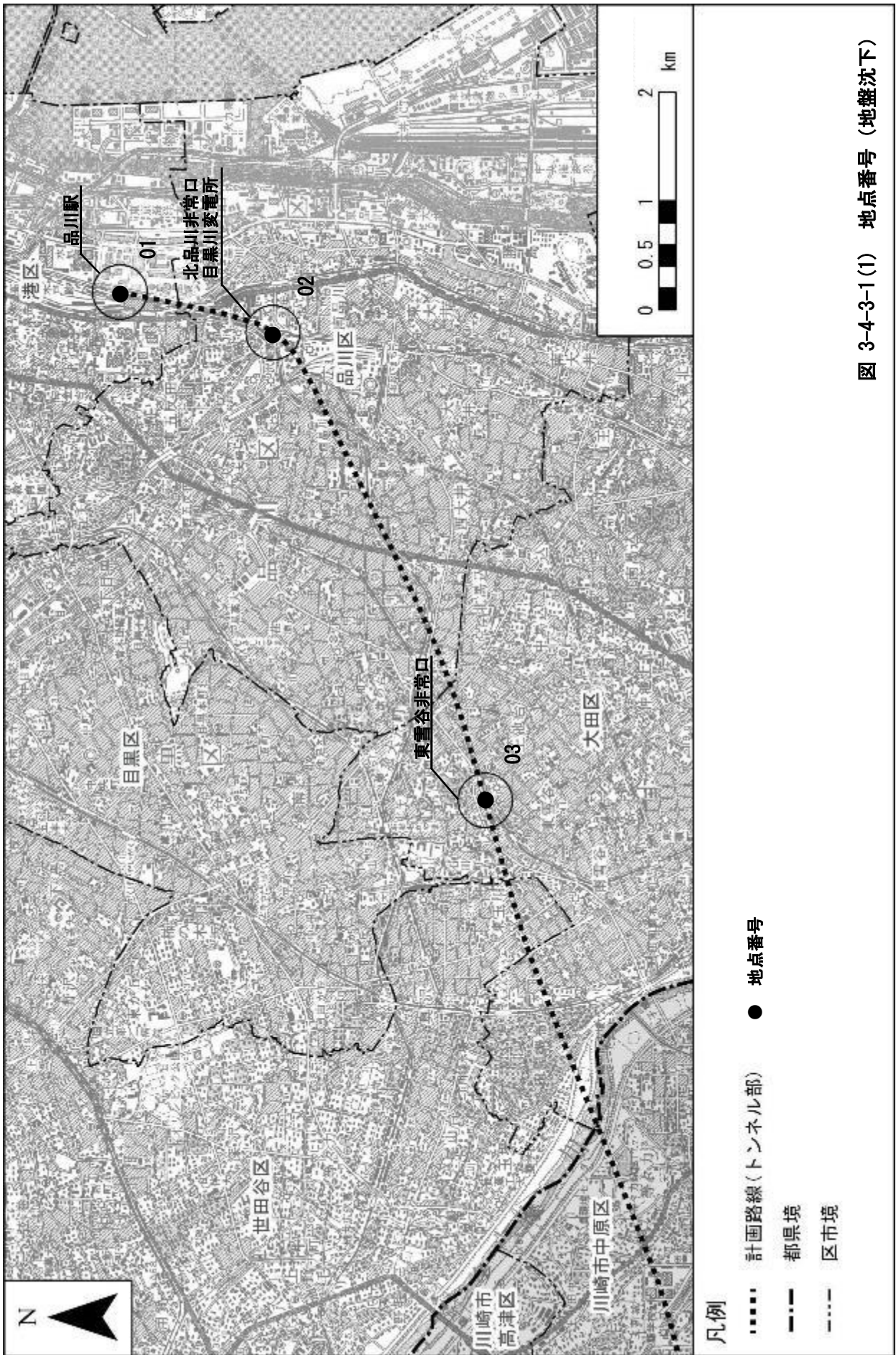


图 3-4-3-1(1) 地点番号 (地盤沈下)

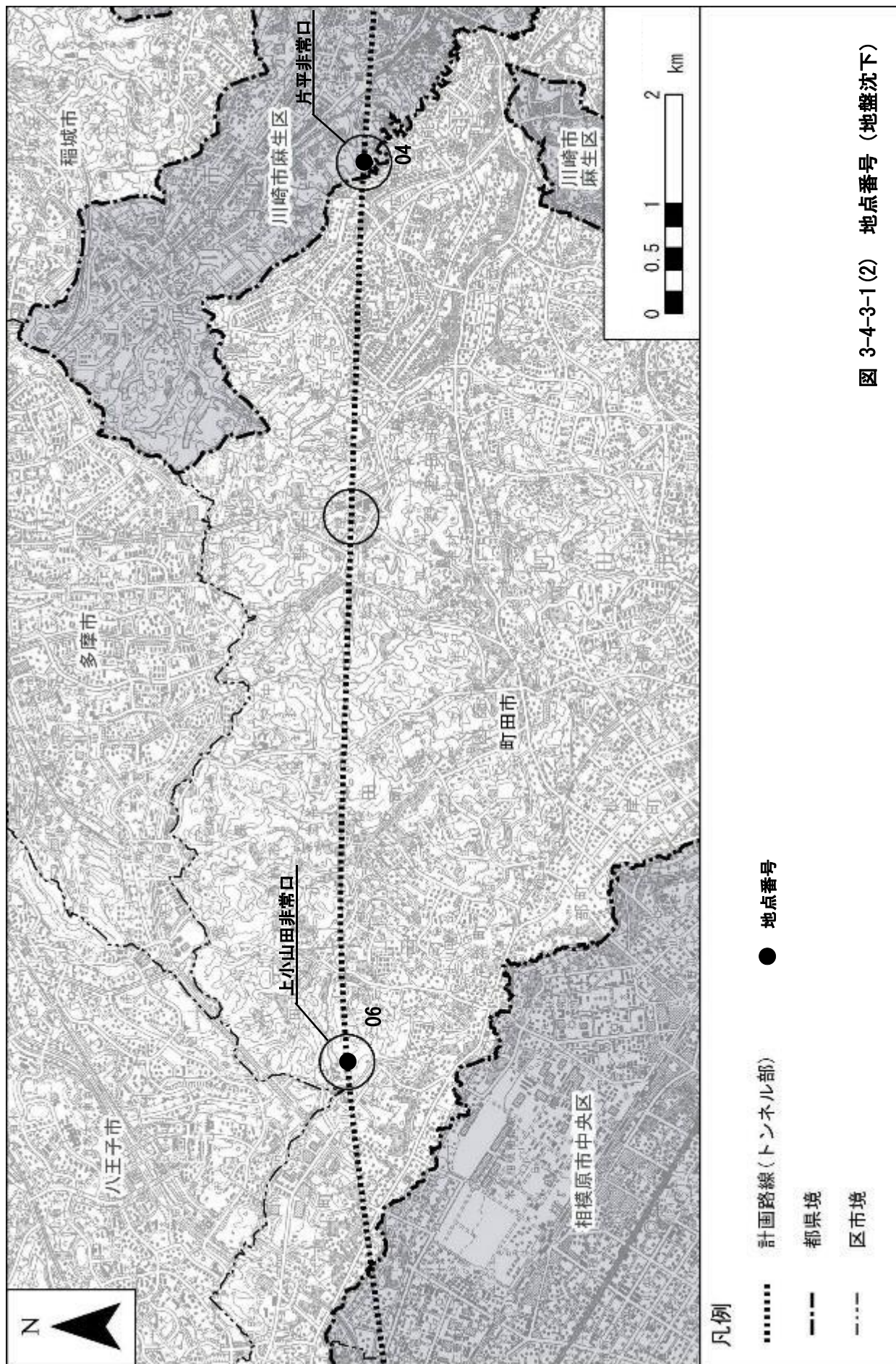


図 3-4-3-1(2) 地点番号 (地盤沈下)

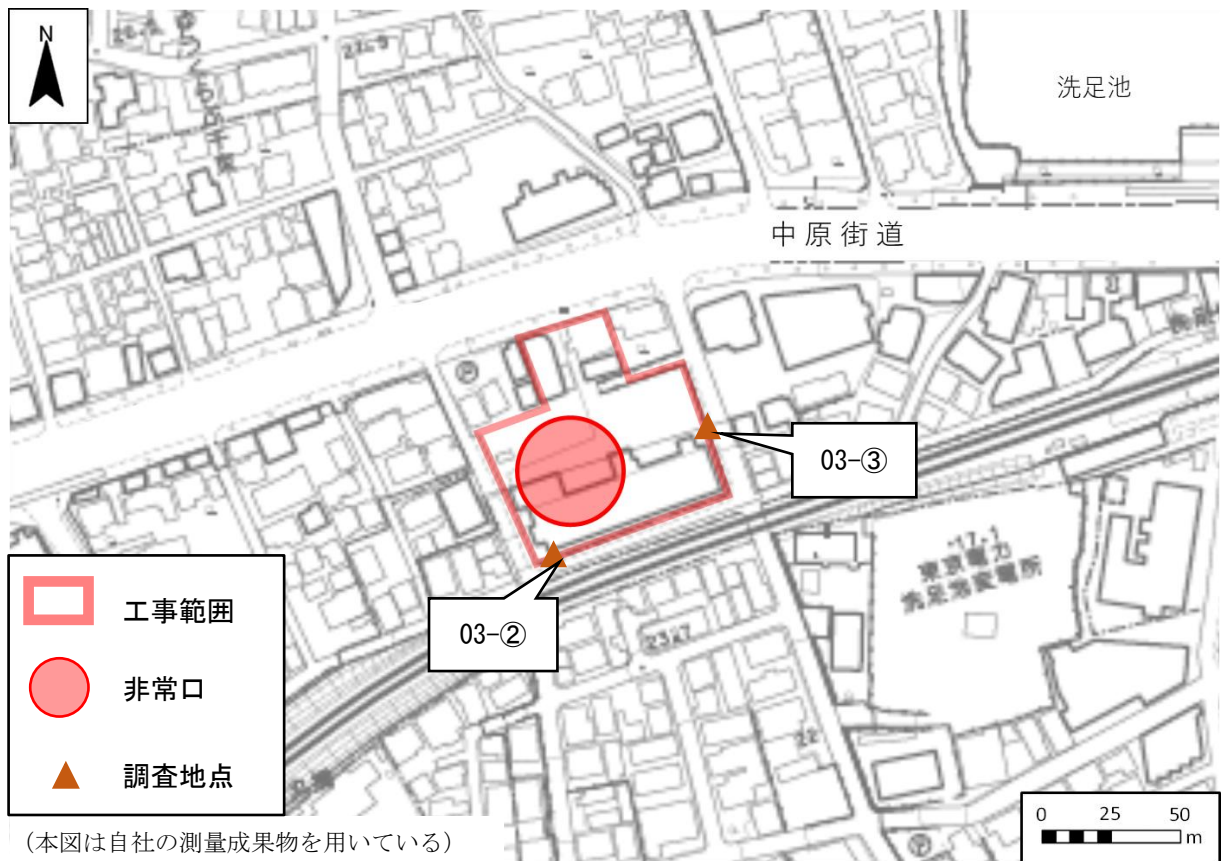


図 3-4-3-2(3) 調査地点（地盤沈下）（03 東雪谷）

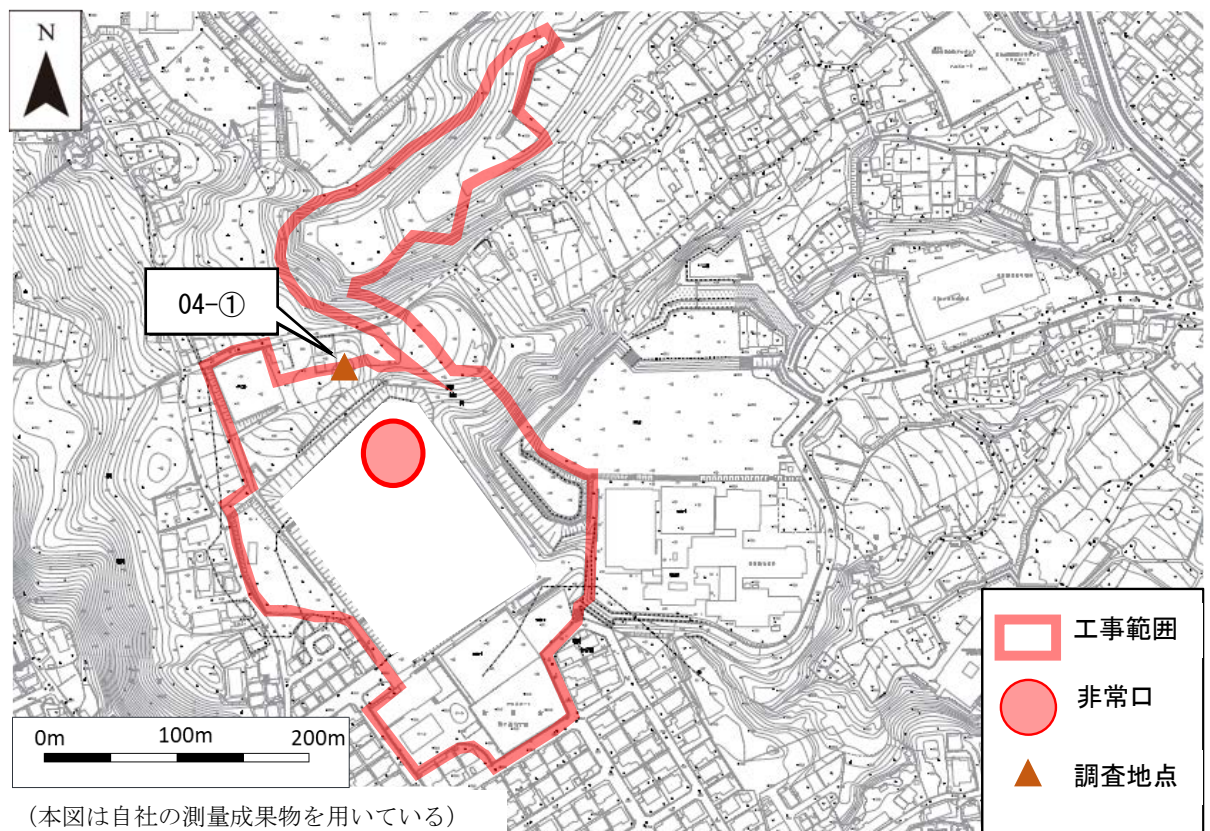


図 3-4-3-2(4) 調査地点（地盤沈下）（04 片平）

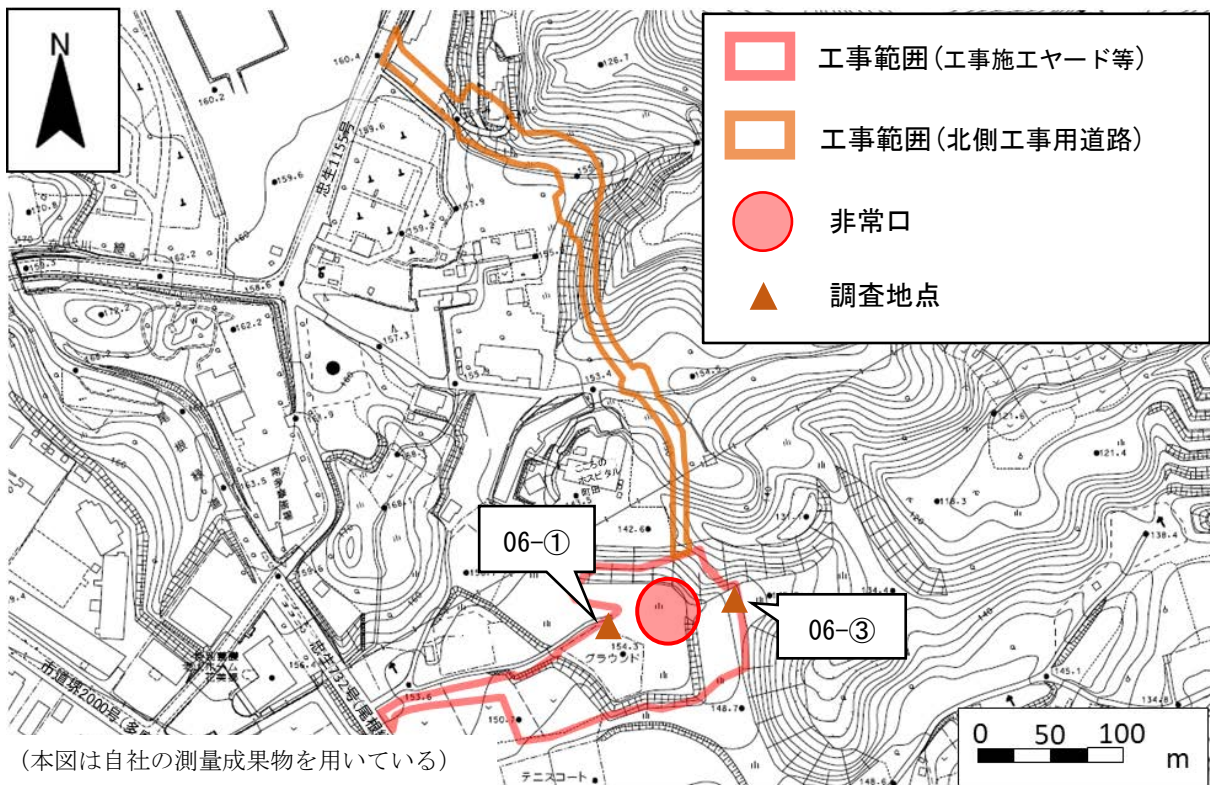


図 3-4-3-2(5) 調査地点(地盤沈下) (06 上小山田)

3-4-4 調査期間

調査期間は、表 3-4-4-1 に示すとおりである。

表 3-4-4-1(1) 調査期間

地点番号	調査地点	実施時期の種別	調査期間
01	01-①	地下工事中	2025年 4月 9日
			2025年 5月 19日
			2025年 6月 16日
			2025年 7月 22日
			2025年 8月 21日
			2025年 9月 25日
			2025年 10月 24日
			2025年 11月 20日
			2025年 12月 18日
01	01-②	地下工事中	2026年 1月 22日
			2026年 2月 19日
			2026年 3月 19日
			2025年 4月 3日
			2025年 5月 7日
			2025年 6月 2日
			2025年 7月 7日
			2025年 8月 25日
			2025年 9月 1日
01	01-③	地下工事中	2025年 10月 24日
			2025年 11月 25日
			2025年 12月 18日
			2026年 1月 16日
			2026年 2月 17日
			2026年 3月 11日
			2025年 4月 3日
			2025年 5月 9日
			2025年 6月 5日
2025年 7月 3日			
2025年 8月 4日			
2025年 9月 1日			
2025年 10月 2日			
2025年 11月 4日			
2025年 12月 1日			
2026年 1月 5日			
2026年 2月 2日			
2026年 3月 2日			

表 3-4-4-1(2) 調査期間

地点 番号	調査 地点	実施時期 の種別	調査期間
02	02-③ 02-⑤	地下工事完了後	2025年 4月 2日 2025年 5月 1日 2025年 6月 4日 2025年 7月 2日 2025年 8月 1日 2025年 9月 4日 2025年10月 1日 2025年11月 6日 2025年12月 4日 2026年 1月 8日 2026年 2月 2日 2026年 3月 6日
03	03-② 03-③	地下工事中	2025年 4月 28日 2025年 5月 31日 2025年 6月 30日 2025年 7月 31日 2025年 8月 29日 2025年 9月 30日 2025年10月 30日 2025年11月 29日 2025年12月 24日 2026年 1月 30日 2026年 2月 27日 2026年 3月 23日
04	04-①	地下工事中	2025年 4月 25日 2025年 5月 28日 2025年 6月 25日 2025年 7月 28日 2025年 8月 25日 2025年 9月 30日 2025年10月 31日 2025年11月 29日 2025年12月 25日 2026年 1月 31日 2026年 2月 28日 2026年 3月 27日
06	06-① 06-③	地下工事完了後※	2025年 4月 23日 2025年 5月 27日

※工事完了（2024年5月）以降、地盤の高さが安定していることを確認し、5月に調査を完了した。

3-4-5 調査結果

調査結果は、図 3-4-5-1に示すとおりである。なお、地盤高は東京湾平均海面（T.P.）を0mとした場合の高さを示す。

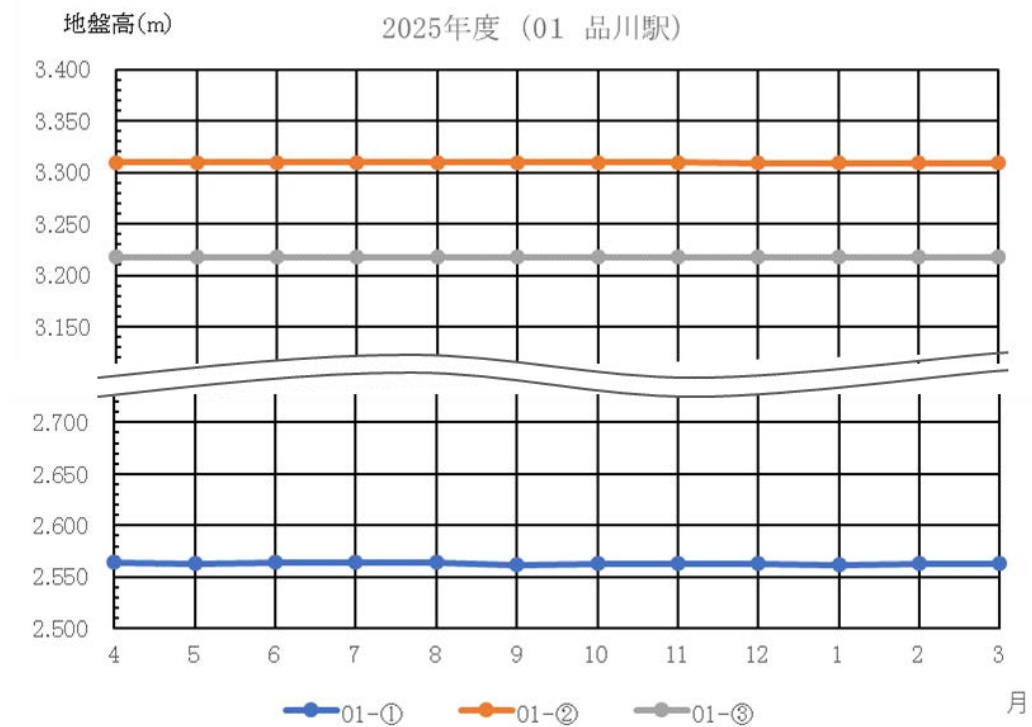


図 3-4-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅)

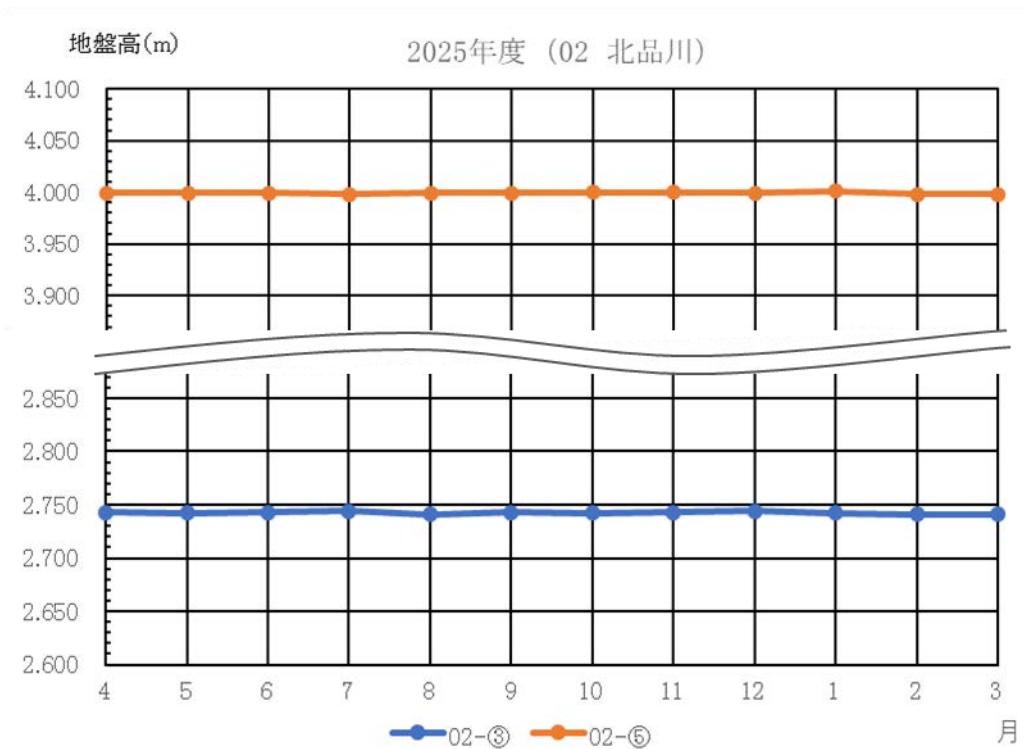


図 3-4-5-1(2) 調査結果 (02 北品川)

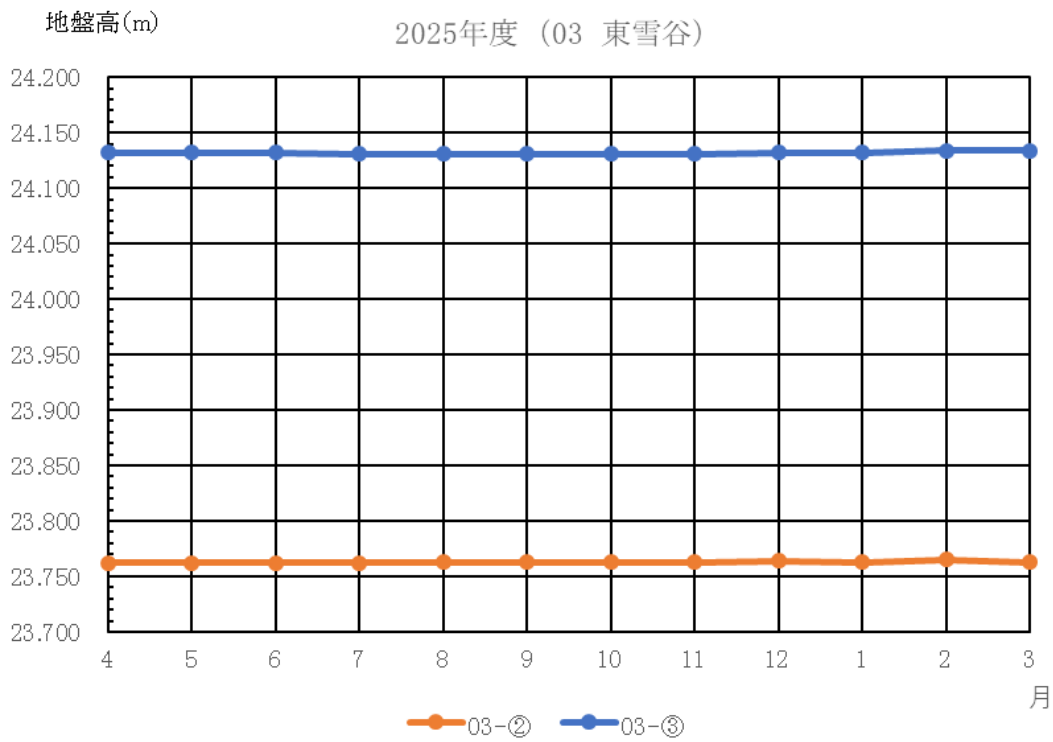


図 3-4-5-1 (3) 調査結果 (03 東雪谷)

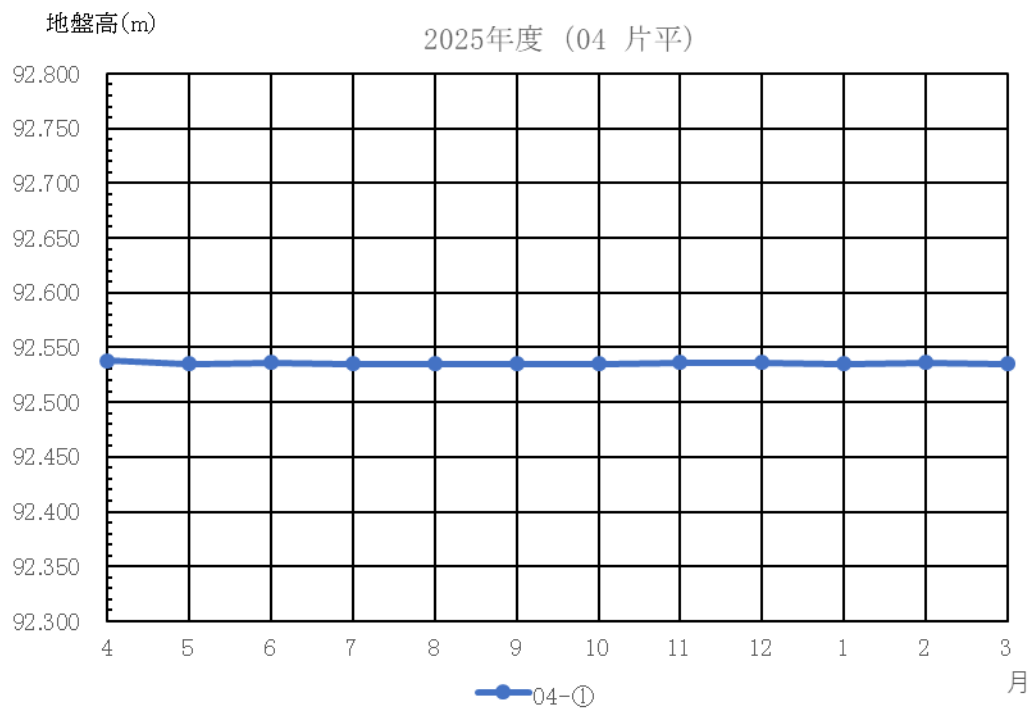


図 3-4-5-1 (4) 調査結果 (04 片平)

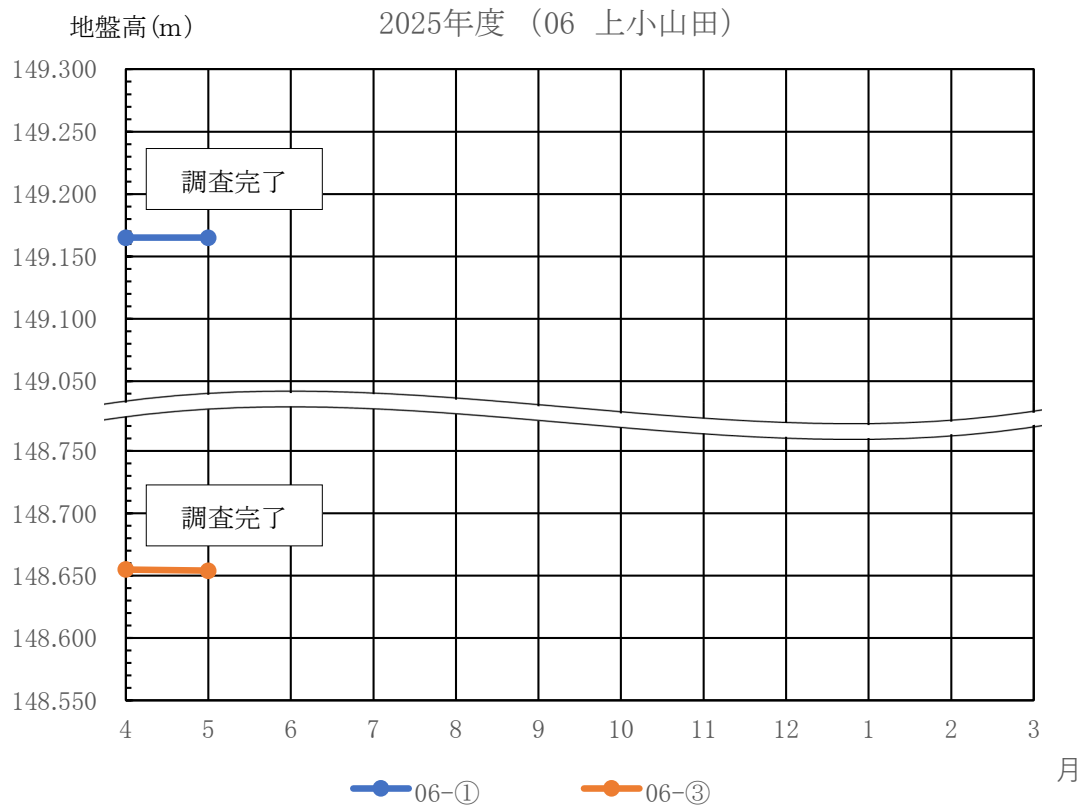


図 3-4-5-1 (5) 調査結果 (06 上小山田)

3-5 土壌汚染

工事実施箇所における発生土に係る土壌汚染について、工事前及び工事中のモニタリングを実施した。

3-5-1 調査項目

調査項目は、土壌汚染の状況（自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素））とした。

3-5-2 調査方法

調査方法は、表 3-5-2-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-1 調査方法

調査項目	地点番号	調査方法
土壌溶出量 (自然由来の重金属等)	01、02、05	「土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件」 (平成 15 年 3 月 6 日、環境省告示第 18 号)
	02、04、05	「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行令第五条第一項に規定する埋立場所等に排出しようとする廃棄物に含まれる金属等の検定方法」 (昭和 48 年 2 月 17 日、環境庁告示第 14 号)
土壌含有量 (自然由来の重金属等)	02、05	「土壌含有量調査に係る測定方法を定める件」 (平成 15 年 3 月 6 日、環境省告示第 19 号)
	01、02、04、05	「底質調査方法」について」(平成 24 年 8 月 8 日、環水大水発第 120725002 号)

3-5-3 調査地点

調査地点は、表 3-5-3-1 及び図 3-5-3-1 に示すとおりである。

表 3-5-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所
01	港区	港南	品川駅
02	品川区	北品川	第一首都圏トンネル (北品川工区)
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口
05	町田市	小野路町	第一首都圏トンネル (小野路工区)

※地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

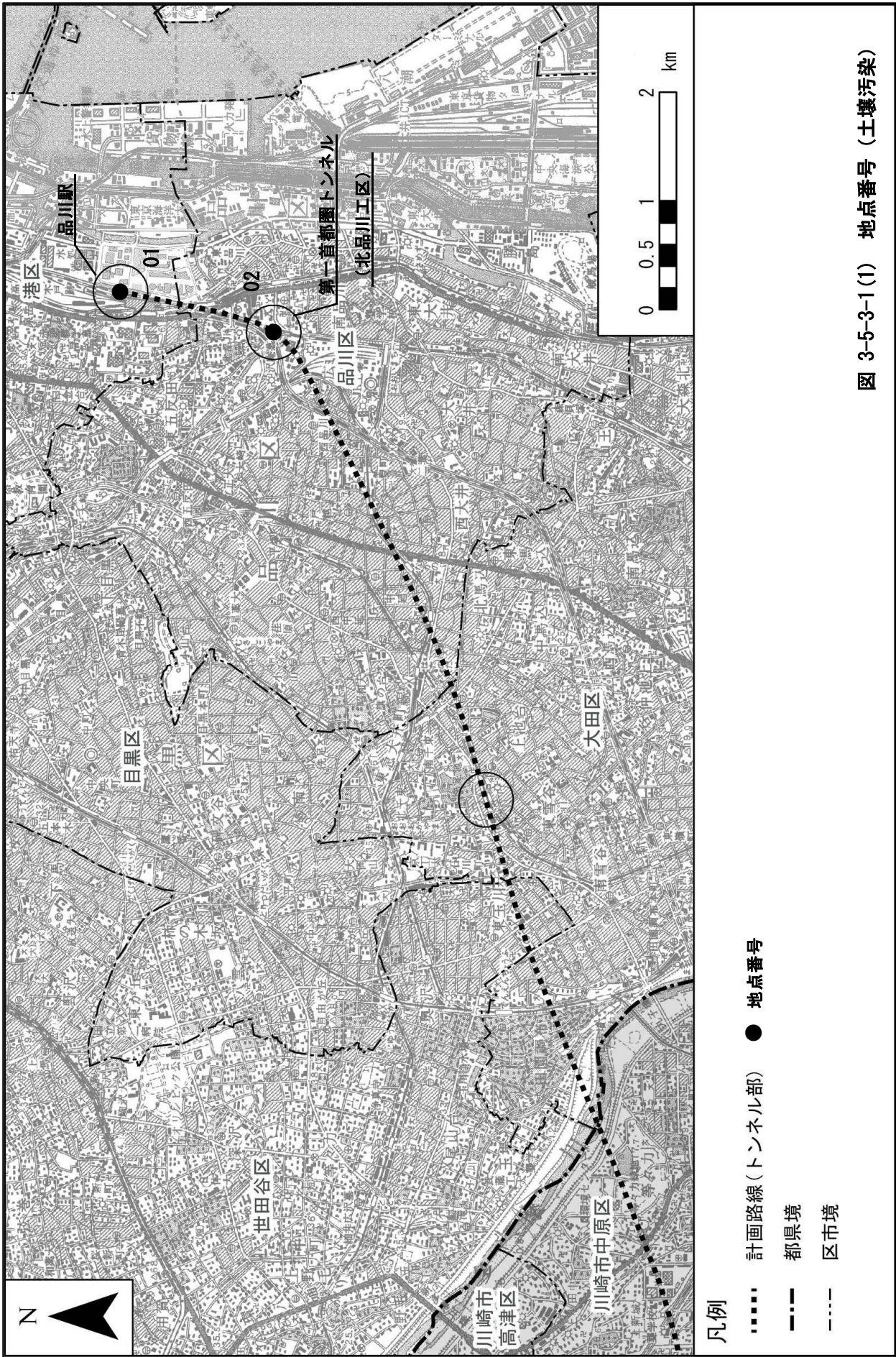
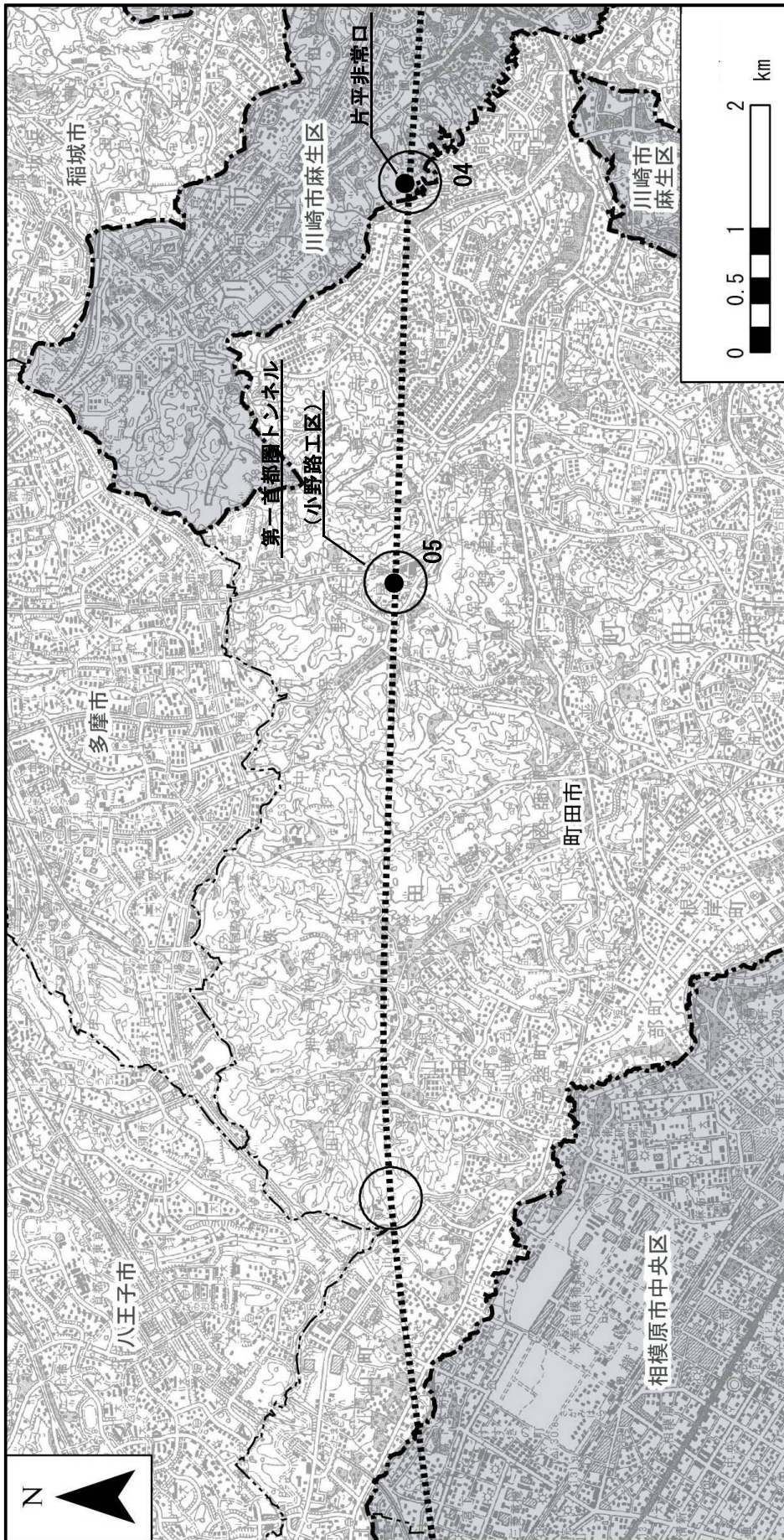


図 3-5-3-1(1) 地点番号 (土壌汚染)

- 凡例
- 計画路線 (トンネル部) ● 地点番号
 - 都県境
 - - - 区市境



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 地点番号
- 都県境
- - - 区市境

図 3-5-3-1 (2) 地点番号 (土壌汚染)

3-5-4 調査期間

調査期間は、表 3-5-4-1 に示すとおりである。

表 3-5-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	調査期間
01	土壌溶出量 土壌含有量	2025年5月26日
02	土壌溶出量 土壌含有量	2021年1月8日*
04	土壌溶出量 土壌含有量	2021年3月19日*
05	土壌溶出量 土壌含有量	2021年1月8日*

※掘削、掘進に先立ち実施したボーリングにより採取した試料を用いて調査した。

3-5-5 調査結果

調査結果は、表 3-5-5-1、表 3-5-5-2 に示すとおりである。

いずれの調査地点において、全ての調査項目で受入先基準に適合していた。

なお、自然由来の重金属等の調査結果は当該月における最大値を記載した。

表 3-5-5-1(1)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号 01）

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 01	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1
2025年5月	<0.0003	<0.02	<0.0005	<0.002	<0.005	<0.002	0.3	0.2

・「<」は未満を示す。

表 3-5-5-1(2)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号 02）

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 02	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2021年1月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.013	<0.005	0.08	0.2	<0.2

・「<」は未満を示す。

表 3-5-5-1(3)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果（月別最大値）（地点番号 04）

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 04	0.03*	0.2*	0.005	0.1	0.1	0.1	15
2021年3月	<0.01	<0.05	<0.0005	<0.01	<0.01	<0.01	<1.5

・「<」は未満を示す。

※受入先基準が改正されたため、最新の値を記載している。（2025年10月以前、カドミウムは0.10mg/L、六価クロムは、0.50mg/L）

表 3-5-5-1(4)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果(月別最大値)(地点番号 05)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 05	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2021年1月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.002	<0.005	0.021	0.1	<0.1

・「<」は未満を示す。

表 3-5-5-2(1)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号 01)

調査時期	水銀
	(mg/kg)
受入先基準 01	25
2025年5月	0.1

表 3-5-5-2(2)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号02)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)
受入先基準 02	1.4	-	25	2	140	39	700	100
2021年1月	0.1	<0.5	<0.1	0.4	16	19	0.19	46

・「<」は未満を示す。

表 3-5-5-2(3)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号 04)

調査時期	水銀
	(mg/kg)
受入先基準 04	25
2021年3月	<2.5

・「<」は未満を示す。

表 3-5-5-2(4)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号 05)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)
受入先基準 05	1.4	-	25	2	140	39	700	100
2021年1月	0.1	<0.5	0.03	0.5	10	12	0.16	36

・「<」は未満を示す。

4 環境保全措置の実施状況

2025年度に実施した環境保全措置は以下のとおりである。

4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置

4-1-1 品川駅

環境保全措置の実施状況は表 4-1-1-1、写真 4-1-1-1～写真 4-1-1-12 に示すとおりである。なお、本工区の2025年度の工事については、地中連壁工、掘削工等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-1-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-1-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-1-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-1-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-1-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-1-3
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-1-4

表 4-1-1-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-1-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-1-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質） ・土壌汚染 	資機材置き場における発生土の適切な管理	写真 4-1-1-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	写真 4-1-1-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-1-8
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質） ・水資源 ・土壌汚染 	薬液注入工法における指針の順守	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真 4-1-1-9
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-1-10

表 4-1-1-1(3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
・ 土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	
・ 温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-1-11
・ 廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・ 大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	
・ 大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-1-12



写真 4-1-1-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真 4-1-1-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用、建設機械使用時における配慮

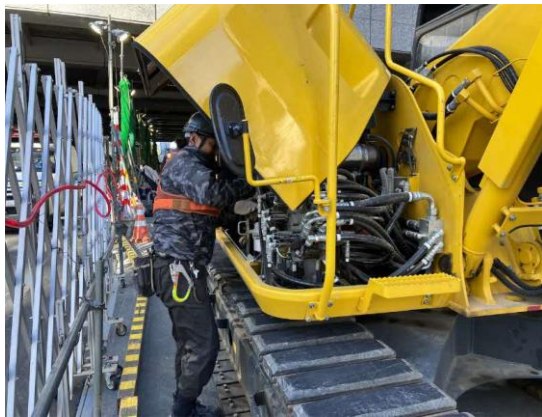


写真 4-1-1-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-1-4 工事現場の清掃、散水



写真 4-1-1-5 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-1-6 工事排水の適切な処理、工事排水の監視



写真 4-1-1-7 資機材置き場における発生土の適切な管理



写真 4-1-1-8 処理設備の点検・整備による性能維持

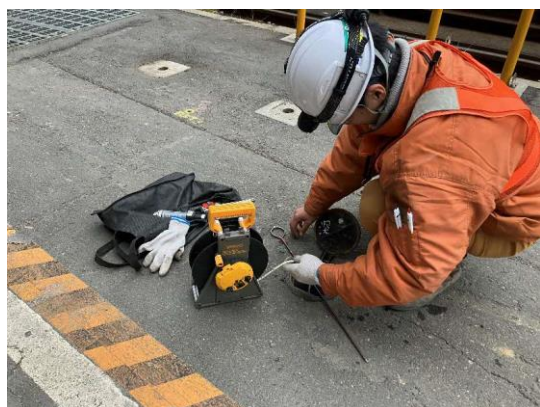


写真 4-1-1-9 地下水の継続的な監視

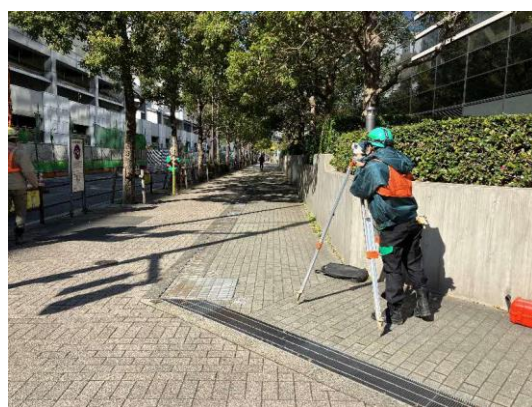


写真 4-1-1-10 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真 4-1-1-11 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-1-12 低公害型の工事用車両の選定

4-1-2 第一首都圏トンネル（北品川工区）

環境保全措置の実施状況は表 4-1-2-1、写真 4-1-2-1～写真 4-1-2-11 に示すとおりである。なお、本工区の 2025 年度の工事については、本格的な掘進等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-2-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-2-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-2-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-2-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-2-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-2-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-2-7
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	

表 4-1-2-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> 地下水（地下水の水位） 水資源 	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-2-8
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 	工事排水の監視	写真 4-1-2-9
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> 土壌汚染 	有害物質の有無の確認と土壌汚染の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> 土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
<ul style="list-style-type: none"> 土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 	建設発生土の再利用	
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-2-10
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） 騒音 振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（粉じん等） 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-2-11
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-2-5
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	



写真 4-1-2-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真 4-1-2-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-2-3 建設機械の使用時における配慮(省燃費運転垂幕)

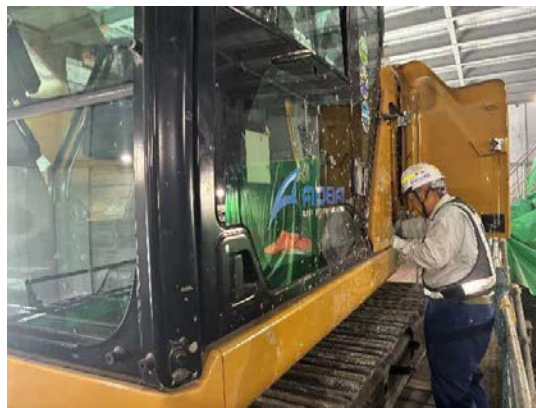


写真 4-1-2-4 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-2-5 工事現場の清掃、散水、資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

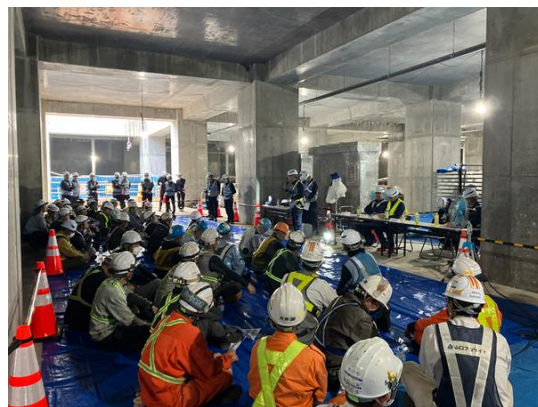


写真 4-1-2-6 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-2-7 工事排水の適切な処理



写真 4-1-2-8 適切な構造及び工法の採用
(密閉性の高いシールド工法の採用)



写真 4-1-2-9 工事排水の監視（透視度計による濁りの確認状況）



写真 4-1-2-10 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-2-11 荷台への防じんシート敷設及び散水

4-1-3 東雪谷非常口

環境保全措置の実施状況は表 4-1-3-1、写真 4-1-3-1～写真 4-1-3-14 に示すとおりである。なお、本工区の 2025 年度の工事については、シールド機到達準備工等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-3-1(1) 2025 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-3-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-3-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-3-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-3-5
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-3-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	

表 4-1-3-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> 地下水（地下水の水位） 水資源 地盤沈下 	止水性の高い山留め工法等の採用	写真 4-1-3-7
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 	工事排水の監視	写真 4-1-3-8
<ul style="list-style-type: none"> 水質（水の濁り、水の汚れ） 水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-3-9
<ul style="list-style-type: none"> 地下水（地下水の水質、地下水の水位） 水資源 地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真 4-1-3-10
<ul style="list-style-type: none"> 地盤沈下 	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> 地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-3-11
<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物等 温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-3-12
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-3-13
<ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） 騒音 振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-3-14
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 騒音 振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-3-13



写真 4-1-3-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真 4-1-3-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-3-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-3-4 工事現場の清掃、散水



写真 4-1-3-5 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-3-6 工事排水の適切な処理



写真 4-1-3-7 止水性の高い山留め工法等の採用

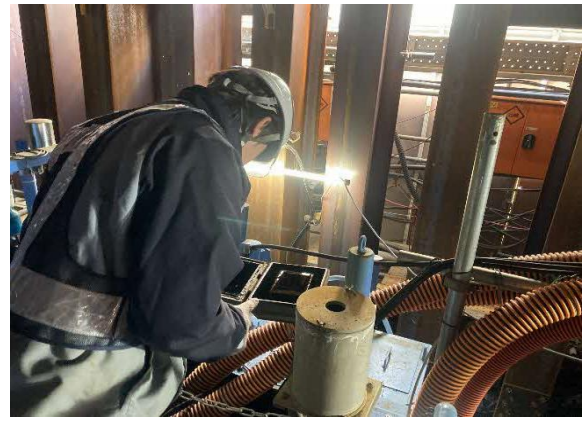


写真 4-1-3-8 工事排水の監視



写真 4-1-3-9 処理設備の点検・整備による性能維持

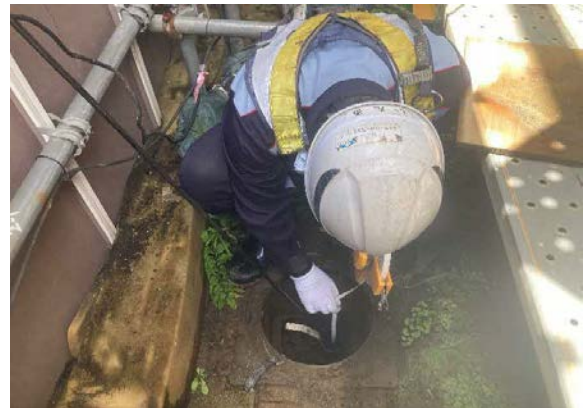


写真 4-1-3-10 地下水の継続的な監視



写真 4-1-3-11 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真 4-1-3-12 副産物の分別、再資源化



写真4-1-3-13 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真 4-1-3-14 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-4 片平非常口

環境保全措置の実施状況は表 4-1-4-1、写真 4-1-4-1～写真 4-1-4-15 に示すとおりである。なお、本工区の 2025 年度の工事については、掘削工、非常口躯体構築工を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-4-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-4-1
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用 低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-4-2 写真 4-1-4-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-4-4
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-4-6
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-4-7
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真 4-1-4-8
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	下水道への排水	
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水位） ・水資源 	止水性の高い山留め工法等の採用	

表 4-1-4-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	写真 4-1-4-9
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-4-10
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下 	地下水の継続的な監視	写真 4-1-4-11
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	適切な構造及び工法の採用 地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
<ul style="list-style-type: none"> ・地盤沈下 	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-4-12
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-4-9
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染 	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	外来種の拡大抑制	写真 4-1-4-8
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	濁水処理設備の設置	写真 4-1-4-13
<ul style="list-style-type: none"> ・動物 ・生態系 	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-4-1 写真 4-1-4-2
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 	建設発生土の再利用 発生土を有効利用する事業者への情報提供	
<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物等 ・温室効果ガス 	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-4-14
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	高負荷運転の抑制	
<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス 	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-4-3

表 4-1-4-1(3) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-15
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	環境負荷低減を意識した運転の徹底（資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転）	



写真 4-1-4-1(1) 仮囲い・防音シート等の設置



写真 4-1-4-1(2) 仮囲い・防音シート等の設置(エンジン周りに防音シートを設置)



写真 4-1-4-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-4-3 低公害型の工事用車両の選定、低燃費車種の選定



写真 4-1-4-4 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-4-5 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-4-6 工事現場の清掃及び散水

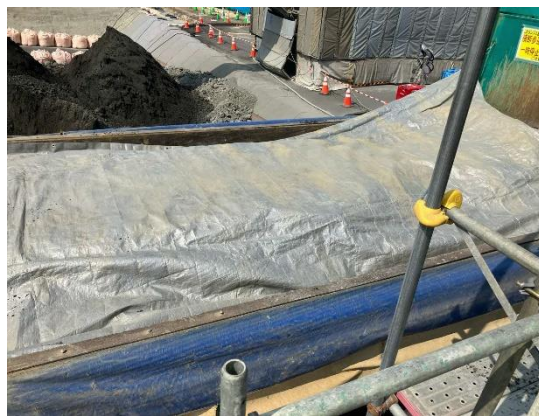


写真 4-1-4-7 荷台への防じんシート敷設及び散水（防じんシートの敷設）



写真 4-1-4-8 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄、外来種の拡大抑制



写真 4-1-4-9 工事排水の監視、工事排水の適切な処理



写真 4-1-4-10 処理設備の点検・整備による性能維持



写真 4-1-4-11 地下水の継続的な監視



写真 4-1-4-12 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真 4-1-4-13 濁水処理設備の設置



写真 4-1-4-14 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-4-15 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持

4-1-5 第一首都圏トンネル（小野路工区）

環境保全措置の実施状況は表 4-1-5-1、写真 4-1-5-1～写真 4-1-5-12 に示すとおりである。なお、本工区の 2025 年度の工事については、本格的な掘進等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-5-1(1) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） ・騒音 	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-5-1 写真 4-1-5-2
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） 	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-5-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事規模に合わせた建設機械の設定	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 	工事の平準化	
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音 	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-5-3
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 	建設機械の使用時における配慮	
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-4
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（粉じん等） 	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-5-5
<ul style="list-style-type: none"> ・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス 	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-5-6
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染 	工事排水の適切な処理	写真 4-1-5-7
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水（地下水の水位） ・水資源 	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-5-8
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	工事排水の監視	
<ul style="list-style-type: none"> ・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 	処理設備の点検・整備による性能維持	

表 4-1-5-1(2) 2025年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2025年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	仮置場における発生土の適切な管理	
・ 土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
・ 土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・ 動物 ・ 生態系	濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-5-7
・ 動物 ・ 生態系	防音シート、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-5-1 写真 4-1-5-2 写真 4-1-5-3
・ 植物 ・ 生態系	外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄	
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-5-9
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-10
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・ 動物 ・ 生態系	資材運搬等の適切化	
・ 大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-5-11
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-5-12



写真 4-1-5-1 仮囲い・防音シート等の設置



写真 4-1-5-2 仮囲い・防音シート等 (防音ハウス) の設置



写真 4-1-5-3 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-5-4 建設機械の点検及び整備による性能維持

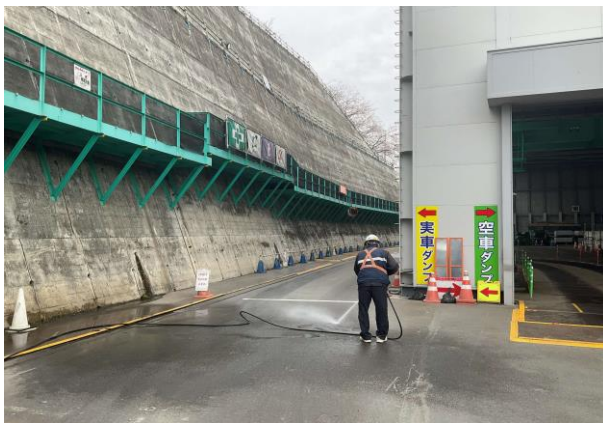


写真 4-1-5-5 工事現場の清掃、散水



写真 4-1-5-6 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-5-7 工事排水の適切な処理、濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置



写真 4-1-5-8 適切な構造及び工法の採用



写真 4-1-5-9 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-5-10 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持

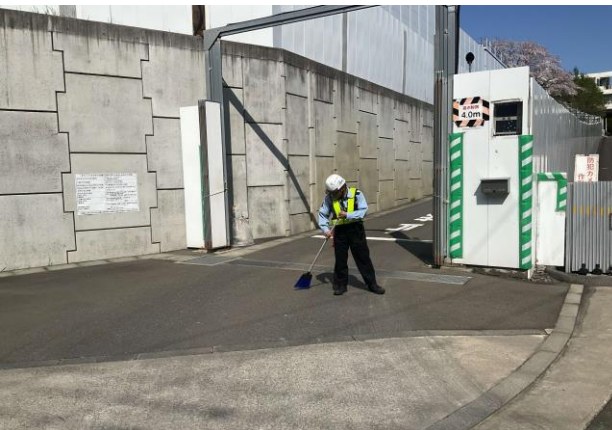


写真 4-1-5-11 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真 4-1-5-12 低公害型の工事用車両の選定

5 その他特に実施した調査

5-1 希少猛禽類の営巣地の状況調査

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成 26 年 11 月」において調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、営巣地の状況を確認した。本調査では、2025 年度に完了した調査結果を記載した。

5-1-1 調査方法

調査方法は、表 5-1-1-1 に示すとおりである。なお、評価書【東京都】時点で確認したオオタカの小野路ペアを A ペア、上小山田ペアを B ペアとする。

表 5-1-1-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	営巣地の状況調査	2024 年度の営巣地の状況調査で確認された A ペア及び B ペアの営巣地において、双眼鏡等を利用し、巣の使用状況の確認を行った。 A ペアについては 2024 年度に確認した巣を使用していなかったため、その他の古巣を確認するとともに、周辺の林内を踏査し、新たな営巣地の有無の確認を行った。

5-1-2 調査地点

調査地点は、2024 年度の営巣地の状況調査で確認された A ペア及び B ペアの営巣地の周辺とした。A ペアについては 2024 年度に確認した巣を使用していなかったため、過去に確認されたオオタカの巣の周辺も調査することとした。なお、設定にあたっては専門家等から意見を聴取した。

5-1-3 調査期間

調査期間は、表 5-1-3-1 に示すとおりである。

表 5-1-3-1 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	ペア名	調査実施日
希少猛禽類	営巣地の状況調査	オオタカ (A ペア)	繁殖期 2025年 3 月 25 日～2025年 3 月 27 日※ 2025年 6 月 9 日
		オオタカ (B ペア)	

※2024 年度における営巣地の状況調査において繁殖に繋がる痕跡が見られなかったことを踏まえ、2025 年度における営巣地の状況調査にあたって実施した補足調査日を示す。

5-1-4 調査結果

希少猛禽類の調査における確認状況は、表 5-1-4-1 に示すとおりである。

表 5-1-4-1 調査結果

ペア名	確認状況
オオタカ（Aペア）	2024 年度の営巣地の状況調査で確認した営巣地の近傍、また、過去に確認されたオオタカの営巣地の近傍にて踏査を実施したところ、2024 年度で確認した営巣地及び 2022 年で確認した営巣地の近傍において成鳥及び若鳥の飛翔等を確認したが、繁殖に繋がる痕跡は確認できなかった。今後も、専門家の意見を踏まえ、継続して調査を実施する。
オオタカ（Bペア）	2024 年度の営巣地の状況調査で確認した営巣地の近傍にて調査を実施したところ、2024 年度で確認した営巣地の近傍において成鳥の警戒声や巣立ち雛の飛翔中の鳴き声を確認したことから、巣立ち後の巣外育雛中であると考えられた。今後も、専門家の意見を踏まえ、継続して調査を実施する。

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等による確認とした。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、東雪谷非常口、片平非常口および第一首都圏トンネル（小野路工区）とした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、2025年度とした。

6-1-5 集計結果

集計結果は、表 6-1-5-1 に示すとおりである。

表 6-1-5-1(1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量
建設発生土	88,441m ³

注：建設発生土の発生量は、ほぐし土量である。

表 6-1-5-1(2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類	発生量	再資源化等の量 ^{※1}	再資源化等の率 ^{※2}	
建設廃棄物	建設汚泥	59,300m ³	59,300m ³	100%
	コンクリート塊	1,300m ³	1,291m ³	99%
	アスファルト・ コンクリート塊	610m ³	602m ³	99%
	建設発生木材	222t	222t	100%

※1：「再資源化等の量」の定義は以下のとおりとする。

- ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計
- ・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計

なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

※2：「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。なお、割合は小数点以下を四捨五入している。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等による確認とし、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、東雪谷非常口、片平非常口及び第一首都圏トンネル（小野路工区）とした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、2025 年度とした。

6-2-5 集計結果

集計結果は、表 6-2-5-1 に示すとおりである。

表 6-2-5-1 温室効果ガス（CO₂換算）排出量の状況

区分		温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量 （tCO ₂ ）		
		小計	行為別合計	
建設機械の稼働	燃料消費（CO ₂ ）	2,071	6,097	
	燃料消費（N ₂ O）	14		
	電力消費（CO ₂ ）	4,012		
資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	CO ₂	2,853	2,867	
	CH ₄	1		
	N ₂ O	13		
建設資材の使用	CO ₂	7,585	7,585	
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	7	7
		N ₂ O	-	
	埋立	CH ₄	-	
CO ₂ 換算排出量の合計			16,556	

・排出がない場合は「-」と記載した。

7 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 7-1 に示す者に委託して実施した。なお、委託した業務のうち、東京都においては、主にパシフィックコンサルタンツ株式会社が担当した。

表 7-1 事後調査及びモニタリングに係る業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海 コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 杉崎 英司	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目 33 番 10 号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 畠山 仁	東京都新宿区 西新宿六丁目 14 番 1 号
パシフィック コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 大本 修	東京都千代田区 神田錦町三丁目 22 番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 藤原 協	東京都新宿区 北新宿二丁目 21 番 1 号
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目 13 番 3 号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 吉村 剛	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目 11 番 12 号

・ 2026 年 6 月 1 日時点の情報

上記のほか、工事中の環境調査等に係る業務のうち、工事の実施に係る一部の測定は、表 7-2 に示す工事請負業者が実施した。

表 7-2 測定を実施した工事請負業者

主な実施箇所	工事請負業者の名称	
		構成員
品川駅	中央新幹線品川駅新設（北工区）工事共同企業体	清水建設株式会社、名工建設株式会社、三井住友建設株式会社
	中央新幹線品川駅新設（南工区）工事共同企業体	株式会社大林組、東亜建設工業株式会社、株式会社熊谷組
	株式会社安藤・間	
目黒川変電所	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区）工事共同企業体	株式会社熊谷組、大豊建設株式会社、徳倉建設株式会社
東雪谷非常口	中央新幹線東雪谷非常口新設工事共同企業体	株式会社熊谷組、大豊建設株式会社
	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区）工事共同企業体	株式会社熊谷組、大豊建設株式会社、徳倉建設株式会社
片平非常口	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（東百合丘工区）ほか工事共同企業体	西松建設株式会社、五洋建設株式会社
上小山田非常口	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（小野路工区）工事共同企業体	株式会社安藤・間、岩田地崎建設株式会社、RN 建設株式会社
第一首都圏トンネル	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区）工事共同企業体	株式会社熊谷組、大豊建設株式会社、徳倉建設株式会社
	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（小野路工区）工事共同企業体	株式会社安藤・間、岩田地崎建設株式会社、RN 建設株式会社

参考資料 1：事業の実施状況

1-1 トンネルの施工状況

2025 年度までのトンネル（立坑を含む）の施工状況を、以下に示す。

北品川非常口※¹について、立坑（約 90m）が 2019 年度に完成した。

第一首都圏トンネル（北品川工区）について、調査掘進を終え、本格的な掘進（北品川非常口～等々力非常口）を開始し約 500m 掘進した。

東雪谷非常口※¹について、立坑の躯体構築を 6 割程度（約 35m）施工した。

片平非常口※¹について、立坑（約 115m）の掘削が完了し、躯体構築の底版を施工した。

小野路非常口※²について、立坑（約 80m）が 2020 年度に完成した。

第一首都圏トンネル（小野路工区）について、調査掘進を終え、本格的な掘進（小野路非常口～上小山田非常口）を開始し約 710m 掘進した。

上小山田非常口※²について、立坑（約 110m）が 2024 年度に完成した。

※1 地中連続壁工法

※2 ニューマチックケーソン工法

1-2 建設発生土の主な搬出先と土量

2025年度の各工事実施箇所における建設発生土の主な搬出先と土量を、以下に示す。

品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、片平非常口及び第一首都圏トンネル（小野路工区）からの建設発生土は、公共事業等に約8万 m^3 、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の幹旋による受け入れ先に約0.2万 m^3 を活用した。

参考資料 2 : 騒音・振動の簡易計測

工事最盛期のモニタリングとは別に、各工区において、建設機械の稼働に係る騒音・振動の状況を確認するための簡易計測を実施している。計測中は、周辺からも確認できる位置にモニターを設置して騒音・振動の値を常時表示するとともに、作業中は適宜、騒音・振動の状況を確認して作業騒音・振動の低減に努めた。騒音・振動の計測地点は、表 参 2-1、図 参 2-1 及び図 参 2-2 に示すとおりである。また、モニター表示例は写真 参 2-1 に示すとおりである。

表 参 2-1 簡易計測の実施地点

地点 番号	区市名	所在地	実施箇所
01	港区	港南	品川駅
02	品川区	北品川	第一首都圏トンネル（北品川工区）
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口
04	町田市	能ヶ谷	片平非常口
05		小野路町	第一首都圏トンネル（小野路工区）

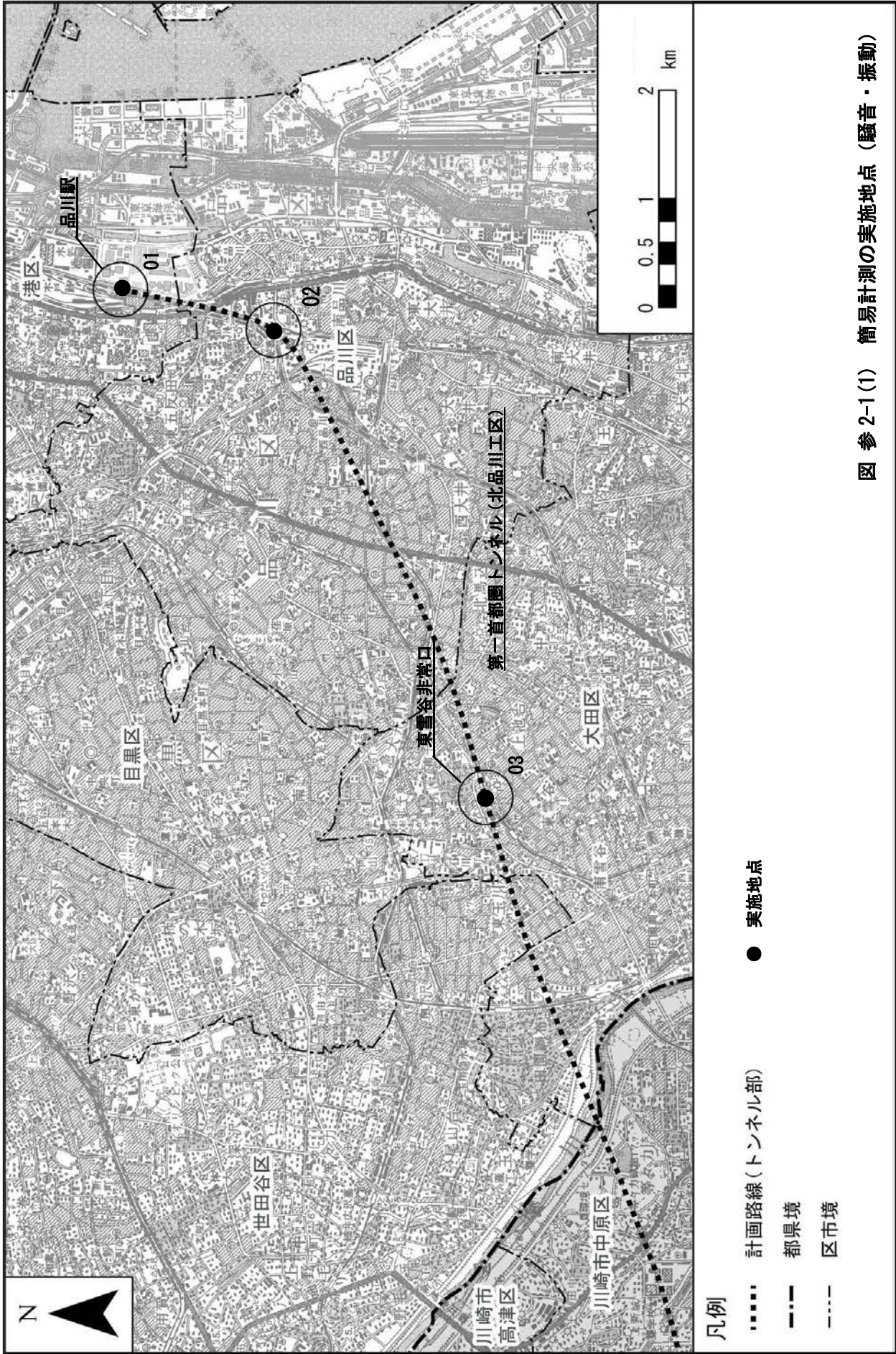


図 参 2-1(1) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動)

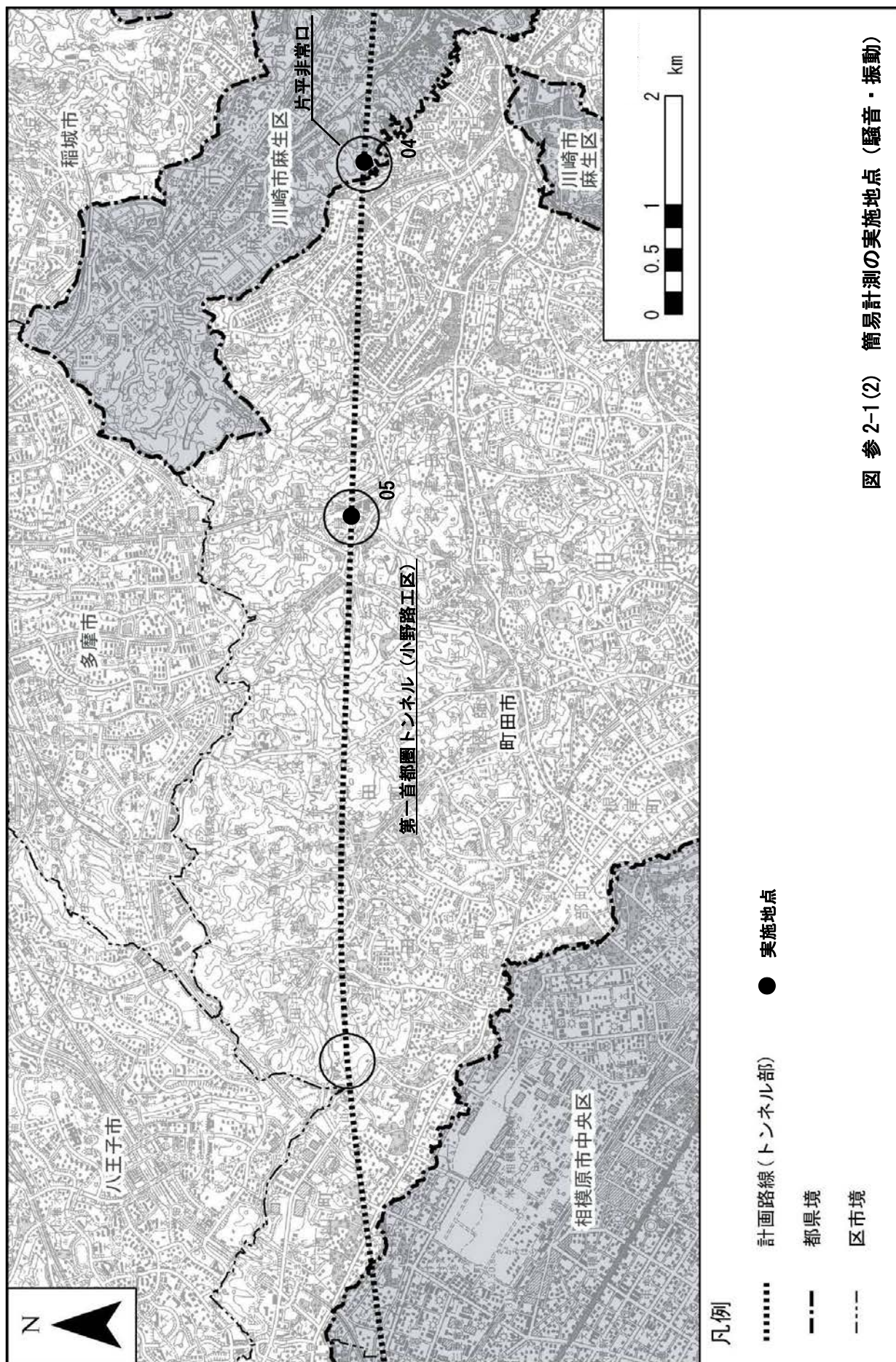


図 参 2-1(2) 簡易計測の実施地点(騒音・振動)

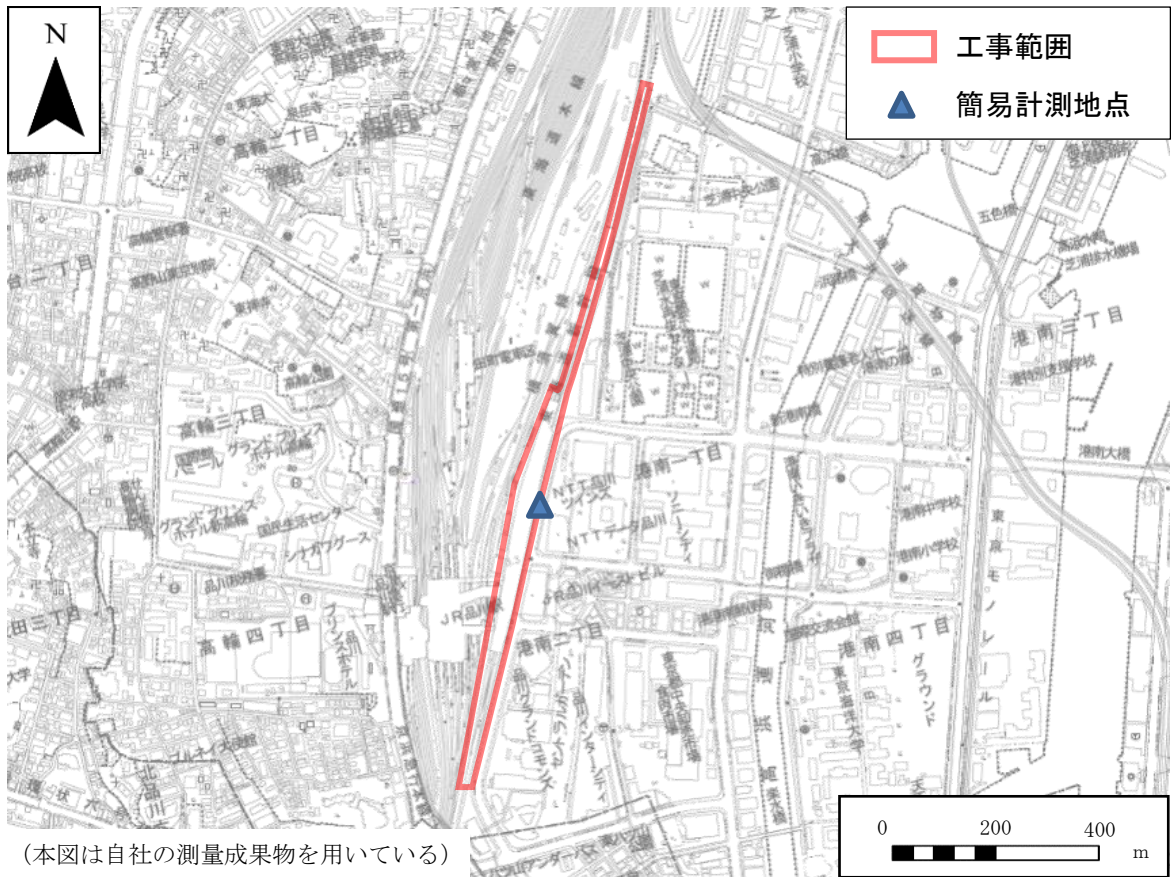


図 参 2-2(1) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (01 港南)

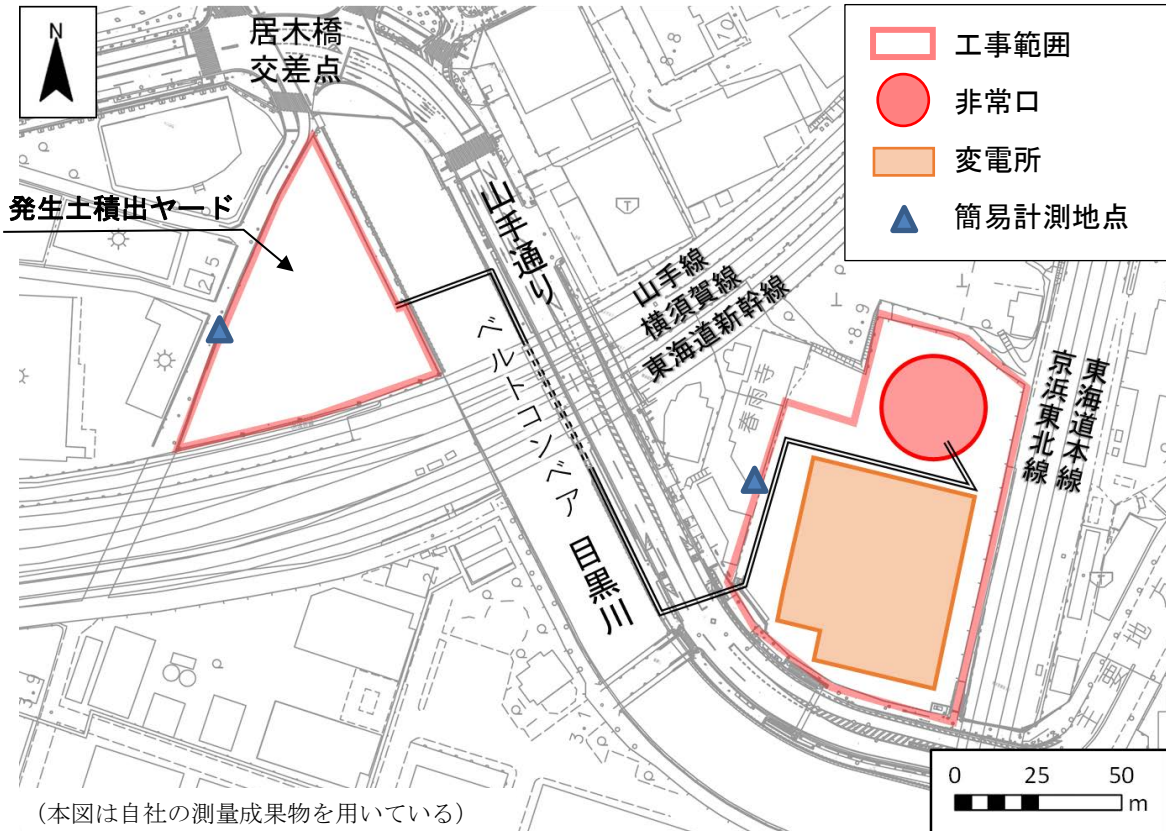


図 参 2-2(2) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (02 北品川)

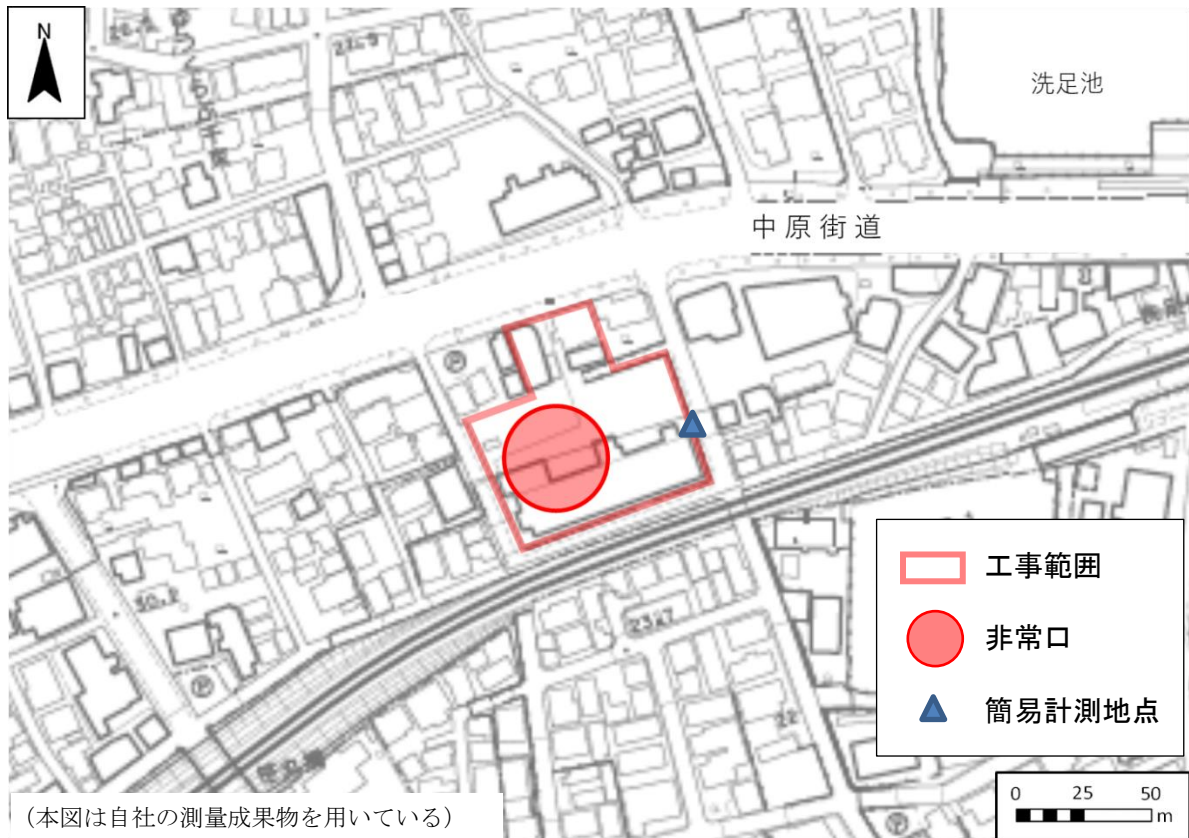


図 参 2-2 (3) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (03 東雪谷)

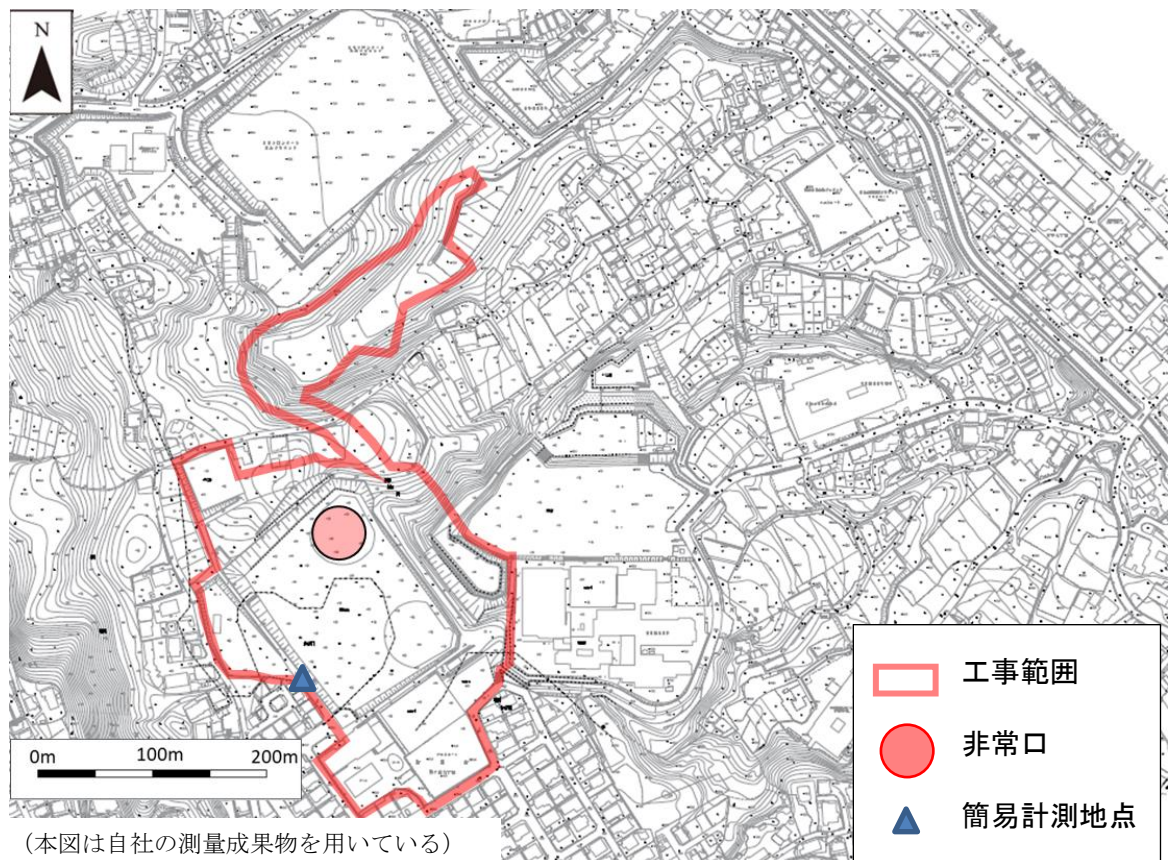


図 参 2-2 (4) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (04 能ヶ谷)

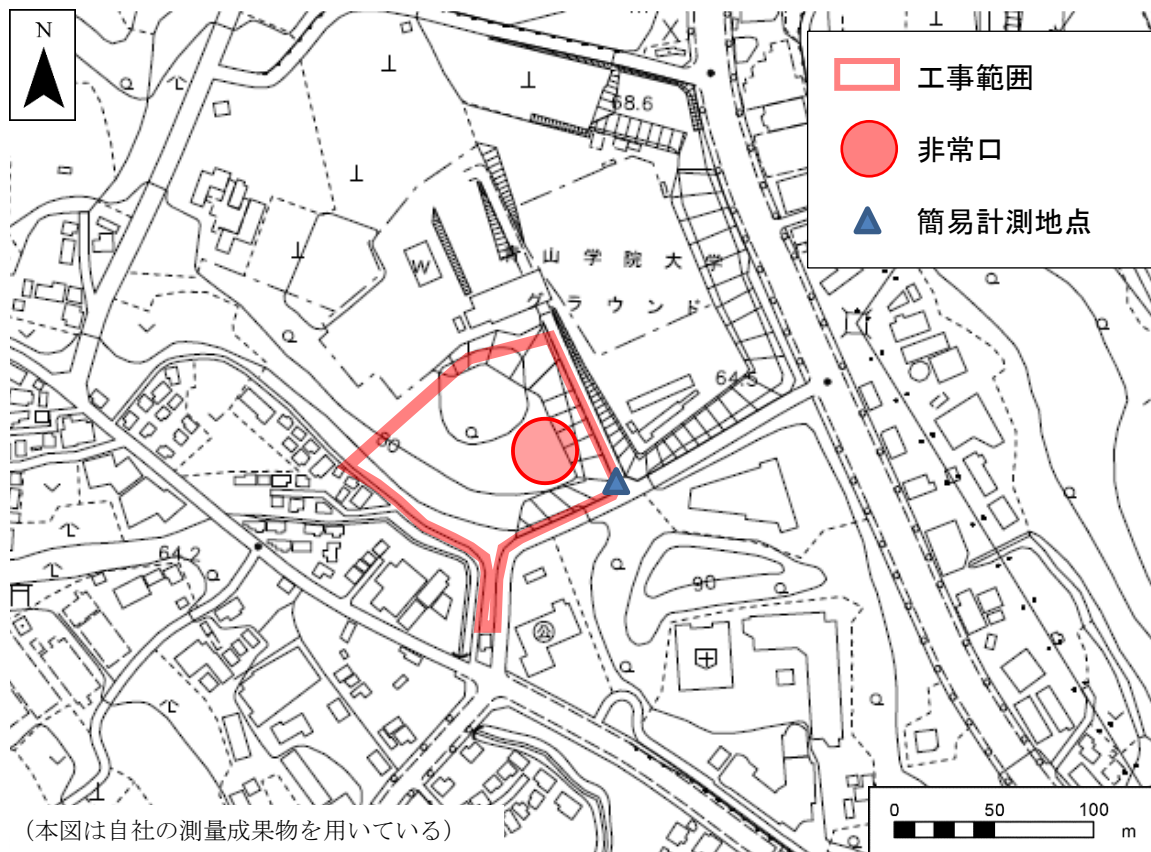


図 参 2-2(5) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動) (05 小野路町)



写真 参 2-1(1) モニター表示例 (01 港南)

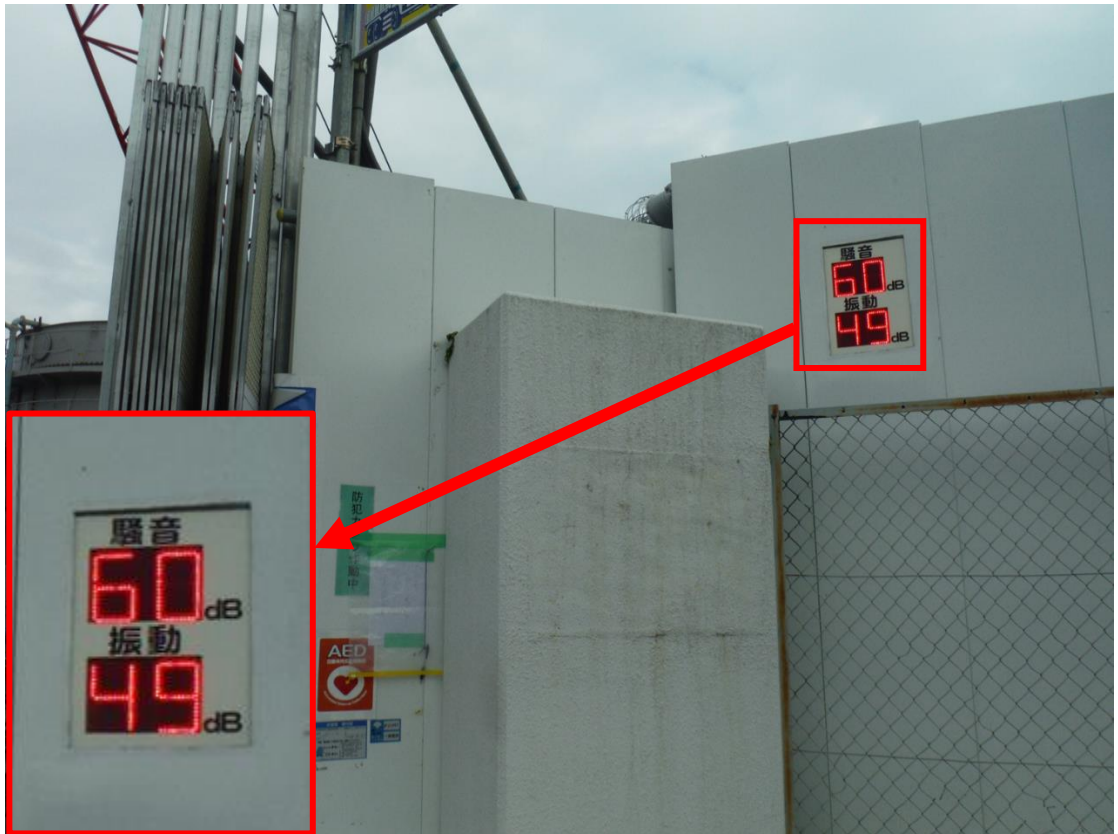


写真 参 2-1(2) モニター一表示例 (02 北品川)

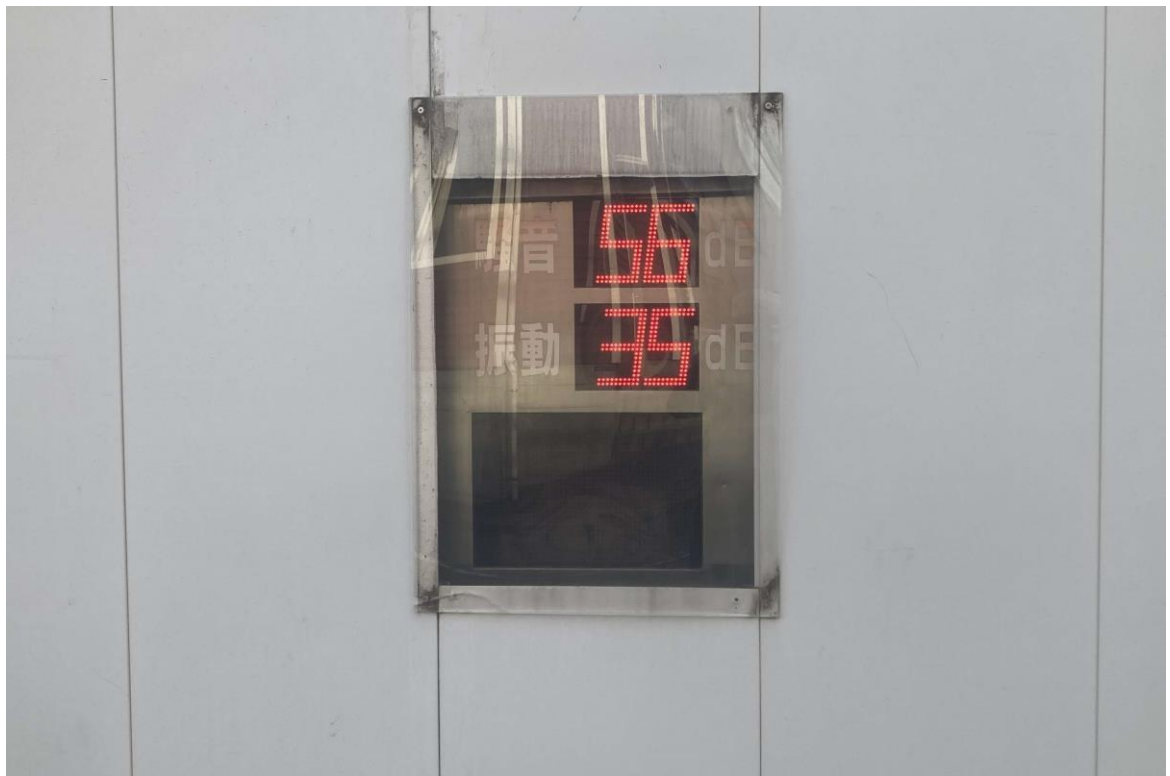


写真 参 2-1(3) モニター一表示例 (03 東雪谷)



写真 参 2-1 (4) モニター表示例 (04 能ヶ谷)



写真 参 2-1 (5) モニター表示例 (05 小野路町)

参考資料 3 : 安全・安心の取組み

以下の取組みを実施し、安全にトンネル掘進を行った。

3-1 調査掘進時の取組み

2025年度は、小野路工区における掘進の初期段階において、シールド工法によるトンネル工事の安全対策や周辺環境への影響の現地確認に主眼を置いた調査掘進が完了した。調査掘進時は、トンネル掘進時の適切な施工管理を行い、振動及び変位等を計測し周辺への影響を確認した。

なお、調査掘進の結果の詳細は、以下に掲載している。

[資料はこちら]

<調査掘進での確認結果に関する説明会の説明資料>

小野路工区（2025年6月13日、14日開催）における調査掘進の確認結果に関する説明会で用いた資料は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載している。



小野路工区

https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/description/_pdf/onoji-digging.pdf

3-2 掘進時の取組み

2025年度は、北品川工区及び小野路工区における本格的な掘進にあたり、施工管理を徹底し、地上の土地利用に支障が生じないように、工事の安全、生活環境の保全に関する取組みを実施した。

なお、取組みの最新の結果は、以下に掲載している。

[資料はこちら]

<工事の安全、生活環境の保全に関する取組みの結果等>

工事の安全、生活環境の保全に関する取組みの結果等は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載を行った。今後、工事の進捗状況に応じて適宜更新を行う。



https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/progress/

北品川工区における地表面隆起の事象及び再発防止対策について

2025年10月に北品川工区の工事現場の地上付近において、地表面の隆起を確認した。当該事象に係る概要や原因・対策について、詳細は以下に掲載している。

[資料はこちら]

<工事現場周辺における地表面隆起に関する説明会の説明資料>

北品川工区（2026年2月1日、2日開催）における説明会で用いた資料は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載している。



北品川工区

https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/description/_pdf/kitashinagawa-around.pdf

（リンク先で当該事象の説明資料（P13～P21）が確認できます）

本書で利用した地図は、注記があるものを除き、国土地理院発行の数値地図50000
(地図画像)を加工して作成した。

本書は、再生紙を使用している。